



# 伯友

2019 No.75



# 目 次

□会長挨拶 .....	石光一郎 (24) ....	1
□会務報告 .....		2
2019年度総会報告		
第1号議案 2018年度事業報告		
第2号議案 2018年度収支決算報告		
第3号議案 「伯友チャレンジ基金」創設		
第4号議案 会員名簿発行の見直しについて		
第5号議案 2020年度事業計画		
第6号議案 2019年度収支予算		
□伯友会懇親会報告 .....	神戸：久留島 聡・東京：尾藤太郎 (51) ....	7
□支部だより		
第14回中部支部報告 .....	南 正治 (35) ....	10
ロサンゼルス伯友会報告 .....	森下秀明 (42) ....	10
ニューヨーク伯友会 .....	市川寿史 (55) ....	10
MUFG 伯友会懇親会開催報告 .....	田崎朋広 (51) ....	11
□会員探訪		
35期 酒井俊弘氏 .....		12
52期 西川圭史氏 .....		18
□2020年度六甲伯友会総会・懇親会のお知らせ .....		22
52期幹事会からのご挨拶 .....		23
「平成塾」開催のご案内 .....		23
□同期会だより .....		26
8期、13期、17期、22期、26期、28期、32期、34期		
□クラブOB会だより		
体操部OB会報告 .....	浅香晃一 (29) ....	28
□WHAT'S UP AT OBANOYAMA (六甲学院の近況)		
生徒へのインタビュー 勝村亮太君 (77期)、佐野康大君 (77期) .....		29
□先生を訪ねて 大石直子先生・畑原勝巳先生 .....		34
□OB講演会 濱田有司氏 (33期) .....	林 豊 (34) ....	39
□寄稿・紀行・聴こう		
11期卒業の井上正順さんがアメリカナショナルアカデミーの会員に選ばれる .....	伊藤博通・山田敏行 (11) ....	40
吉村先生ご退任記念の集い .....	藤原和隆 (42) ....	40
六甲生のアイデンティティ .....	近藤 健 (32) ....	41
□天在人語		
フリン先生を偲ぶ会実施報告 東京：大谷秀二 (23)、神戸：松本 宏 (29) .....		41
□出版案内・本紹介		
「雑誌渡鴉日録」－関西ふるほん探検－ .....	高橋輝次 (21) ....	42
「こころの人類学」－人間性の起源を探る－ .....	煎本 孝 (23) ....	42
□同好会だより		
伯母野山句会からの報告 .....	近藤 健 (32) ....	43
□編集後記 .....		43
□会員の皆様へ .....		44

・HAKUYUKAI・HAKUYUKAI・HAKUYUKAI・  
会 長 挨拶  
・HAKUYUKAI・HAKUYUKAI・HAKUYUKAI・



六甲伯友会会長

24期 石光 一郎

4月に82期生が入学して、2019年度が始まりましたが、5月11日(土)には伯友会の年次総会・懇親会が、51期生のお世話でポートピアホテルを会場に開催され、参加者200名を超える盛況のうちに終えることができました。

総会では、新年度予算案と下記2つの議案が承認され、本年度の事業開始となりました。

- 1) 会員名簿の形態・頒布方法の変更：従来型のデータ(メールアドレスを含む)を掲載し、希望者への有償販売とする。
- 2) チャレンジ基金の創設：設立75周年記念懇親会の寄付・売上剰余金136万円のうち100万円を原資として、今後の特別企画に利用できる基金を設立する。

基金と言えば、2016年5月創設の「伯友奨学基金」には、多くの方からの善意が寄せられ、毎年奨学金支給を続けております。永続的な支給を維持するため、個人的なご協力、同期会やクラブOB会からの寛大なご寄付を、改めて宜しくお願いいたします。

会員名簿の有償販売など、昨今の検討課題には、卒業生数の減少による会費収入減という問題が絡んでいます。今後も伯友会の各種事業を維持するため、引き続き財政検討委員会を中心に予算項目の見直しや支出状況のモニタリングをお願いしています。会員の皆様にご理解ご協力をいただきたいと思います。

ここで、簡単に卒業時の生徒数の状況を振り返りたいと思います。昭和30年代までの募集3クラス約150名(23期のみ特別4クラス編成)の時代を経て、正式に4クラス制となった29期から68期までは募集定員192名で、卒業生すなわち伯友会新入会員に関しては、180~190名で推移してきました。母校創立75周年の新校舎完成を控えた2011、12年度には、募集定員は190名となり、2013年度にはさらに定員削減184名となって、現在に至っています。定員削減に加え、近年、不登校や学業不振などに

よる転出者も増加傾向にあり、昨年の75期卒業生は158名、今年の76期卒業生は166名、というのが現状です。

さて、今年度総会・懇親会は、2年振りに親しみあるポートピアホテルでの開催となりましたが、昨年の伯友会設立75周年記念懇親会「六甲大祭り」が、担当の50期生の熱意と団結力で大成功を納めたのに続き、今年も51期生の頑張りで、同期の山田ルイ53世こと、山田順三君の出演も得て、200名を優に超える参加者となりました。

また、今年に関東支部懇親会が、上智大学を会場に開催され、懇親会前の「令和塾」と共に参加させていただきました。私は1967年に六甲を卒業、上智大学に進学しましたが、四ツ谷駅から大学正門に続く江戸城真田堀の土手と、堀を埋め立てたグラウンドは当時のままでありましたが、私も含め多くの六甲卒業生が過ごしたキャンパス内の男子学生寮は、残念ながら姿を消しておりました。今回の会場の新2号館の向かいには、かつて英語学科の授業を受けた赤レンガ1号館が唯一当時のまま残っており、半世紀前を思い起こして、感無量の関東支部懇親会参加となりました。

関東支部では姉妹校4校同窓会の連携を強化推進し、今年は今和塾・懇親会共に、栄光、広島、上智福岡からの参加をいただき、9月には4校ジョイント懇親会として「イエズス会姉妹校4校長パネルトーク」も開催されました。ご存知のように、広島学院・三好彰校長(32期)と六甲学院・古泉肇校長(30期)は伯友会会員です。11月30日には神戸で「4校同窓会連絡協議会(JJHI)」を開催する予定です。

HPでもご案内している通り、伯友会設立75周年を機に、設立以来の「伯友会の歩み」をまとめるべく、母校の別館資料室に保存された古い資料の整理に、事業委員会、広報委員会の有志で取り組んでいただいています。懐かしく貴重な資料が多数残されていますので、どうぞ完成をご期待ください。

母校では、生徒の国内研修、ニューヨーク研修、午後8時まで自習室開設、不登校生のための登校室(別館内)の設置など、新しい試みが精力的に進められています。伯友会におきましても、母校への支援など各種事業の充実と会員相互の親睦、姉妹校同窓会とのさらなる連携を目指したいと考えています。皆様の変わらぬご支援を宜しくお願い致します。

# 会務報告

## 2019年度総会報告

2019年度六甲伯友会総会を2019年5月11日(土)午後3時より、神戸ポートピアホテル のじぎく・すみれの間において開催致しました。

総務副委員長の司会のもと、石光会長の挨拶の後、藤本副会長を議長に選出し、下記の議案について審議しました。

- 第1号議案 2018年度事業報告の件
- 第2号議案 2018年度収支決算報告の件
- 第3号議案 「伯友チャレンジ基金」創設の件
- 第4号議案 会員名簿発行の見直しの件
- 第5号議案 2019年度事業計画案の件
- 第6号議案 2019年度収支予算案の件

審議の結果、すべての議案とも承認されました。以下、その内容をご報告いたします。

### 第1号議案 2018年度事業報告

#### ●2018年度末総会員数および終身会員数

	総会員数	終身会費納入者数	末梢者数	終身会員数	年会費納入者数
2018年度	11,095人	6,464人	341人	6,123人	106人
		新規 192人			延べ 136人
2017年度	10,864人	6,272人	311人	5,961人	79人
		新規 170人			延べ 111人
増減	107人	192人	30人	162人	△27人
		新規△22人			延べ△25人

#### ●総務委員会

- ①定時総会 2018年4月21日(土) 於：六甲学院生徒研修所
- ②会議運営・資料作成・議事録作成
  - 幹事会 年4回開催
  - 2018年4/7(土)、7/21(土)、10/13(土)
  - 2019年1/29(土)
  - 常任幹事会年4回開催
  - 2018年6/23(土)、9/29(土)、12/7(金)
  - 2019年3/23(土)
 上記日程にて幹事会、常任幹事会を開催。
- ③会費の徴収
  - 終身会費納入者 192人 (前年比 22人増) 昨年170人
  - 年会費納入者 106人 (前年比 27人増) 昨年79人
- ④本会計・伯友基金・伯友奨学基金の管理

#### ●財政検討特別委員会

- ①財政状況のモニタリング
- ②収支バランスの継続的検討

#### ●事業委員会

- ①学校事業への協力
  - ・伯友文庫の充実
  - ・体育祭：運営スタッフの活動支援 (2018年6月9日)
  - ・バザー：抽選会「伯友会賞」(図書券5本)の提供 (2018年6月23日)
  - ・OB 課外講義：
    - 第10回 (2018年6月29日)
      - 吉田 浩一郎 氏 (株式会社クラウドワークス代表取締役社長兼 CEO) (50期)
      - 「人生の終わりになき挑戦について～クラウドワークスを日本の新しい社会インフラにする～」
    - 第11回 (2018年11月2日)
      - 原田 佳尚 氏 (韓国・Samsung 電子) (46期)
      - 「世界No1を目指すシリコン半導体エンジニアについて」
      - 渡辺 慎也 氏 (インド・株式会社メタルワン) (46期)
      - 「商社マンってどうよ？」
  - ・強歩会：成績優秀者へのメダル・トロフィ授与 (2018年11月21日)
  - ・卒業式：卒業生への記念キーホルダー授与 (2019年2月9日)
- ②対外事業
  - ・三校対抗サッカー大会 於：六甲学院 (2018年10月14日)
  - ・イエズス会校同窓会連絡協議会：第36回会議 (未開催)
- ③伯友奨学基金運営
  - ・基金のPR
- ④伯友会75周年記念事業
  - ・伯友会75周年記念ゴルフコンペ開催 於：六甲国際ゴルフ倶楽部 (2018年8月10日)
  - ・伯友会75周年記念式典開催 於：六甲学院 (2018年8月11日)
  - ・記念品(タオル)製作
  - ・伯友会の歴史を探る資料づくり

#### ●広報委員会

- ①会誌「伯友」72号(春号)、「伯友」73号(秋号)発刊
- ②ホームページ、メールの維持管理
  - ・ウェブサーバ(アマゾンウェブサービス)、ドメイン(hakuyu.jp)ネームサーバ、メールサーバ(Google)SSLサーバ
  - ・ホームページ随時更新
- ③「伯友会活動のあらまし」76期生に配布

## ●会員委員会

## ①支部支援

- ・2018年7月7日(土)日本工業倶楽部において関東支部懇親会開催(110名参加)
- ・2018年10月20日(土)割烹みどりにおいて中部支部懇親会開催(23名参加)

## ②各期同窓会支援

- ・同窓会通信(案内はがき代支援)  
(10期、12期、13期、14期、18期、20期、22期、26期、36期)

## ③「六甲大祭り」開催 於：六甲学院

(2018年8月11日)(884名参加。うち伯友会会員465名)

## ④伯友会ジュニア(50歳以下の会員対象)開催

2018年6月29日(27名参加)、2018年11月2日(17名参加)

## ⑤76期の情報収集

## ⑥次回発行の名簿準備

- ・次回名簿について、有償での名簿発行の検討

## ●情報管理委員会

## ①事務局のパソコン管理

事務局からの問い合わせ対応と情報機器の修理の手配を実施

## ②関東支部とのビデオ会議の試験実施

2018年12月の常任幹事会、2019年1月の幹事会で東京支部とビデオ会議を試験的に実施。神戸と東京の情報共有が進んだと評価された。

## 第2号議案 2018年度収支決算報告

## ●単年度収支決算

2018年4月1日～2019年3月31日  
(単位:円)

	決算額	予算額	差異
<b>収入の部</b>			
<b>①会費収入</b>	<b>8,915,500</b>	<b>8,807,500</b>	<b>108,000</b>
・年会費	408,000	300,000	108,000
・終身会費普通繰入金	6,975,000	6,975,000	0
・終身会費特別繰入金	1,532,500	1,532,500	0
<b>②入会金</b>	<b>16,000</b>	<b>0</b>	<b>16,000</b>
・新入会員入会金(3人)	16,000	0	16,000
<b>③雑収入</b>	<b>1,006,512</b>	<b>61,500</b>	<b>945,012</b>
・預金利息	12	500	△ 488
・雑収入	6,500	61,000	△ 54,500
・寄付収入	0	0	0
・預り金	1,000,000	0	1,000,000
<b>④名簿・広報誌制作協力費(広告収入等)</b>	<b>145,000</b>	<b>200,000</b>	<b>△ 55,000</b>
・名簿広告収入	0	0	0
・広報誌広告収入	145,000	200,000	△ 55,000
<b>当期収入合計</b>	<b>10,083,012</b>	<b>9,069,000</b>	<b>1,014,012</b>

(単位:円)

	決算額	予算額	差異
<b>支出の部</b>			
<b>①一般管理費</b>	<b>2,566,800</b>	<b>3,114,000</b>	<b>△ 547,200</b>
・通信費	315,619	360,000	△ 44,381
・事務局員報酬	1,560,040	1,900,000	△ 339,960
・事務用品費	421,996	450,000	△ 28,004
・事務局警備費	103,680	104,000	△ 320
・慶弔費	5,761	70,000	△ 64,239
・交通費	83,240	150,000	△ 66,760
・プロバイダー使用料	76,464	80,000	△ 3,536
<b>②事業費</b>	<b>5,144,683</b>	<b>5,455,000</b>	<b>△ 310,317</b>
・ <b>総務委員会</b>	<b>251,645</b>	<b>330,000</b>	<b>△ 78,355</b>
・会議費	251,645	330,000	△ 78,355
・ <b>事業委員会</b>	<b>961,103</b>	<b>1,125,000</b>	<b>△ 163,897</b>
・学校事業協力費	135,804	145,000	△ 9,196
・記念品制作費	323,514	340,000	△ 16,486
・対外事業費	15,000	140,000	△ 125,000
・伯友会75周年記念事業費	486,785	500,000	△ 13,215
・ <b>広報委員会</b>	<b>2,699,302</b>	<b>2,430,000</b>	<b>269,302</b>
・広報誌作成費	1,193,100	1,100,000	93,100
・広報誌発送費	1,288,427	1,100,000	188,427
・インターネット維持費	167,663	180,000	△ 12,337
・伯友会活動のあらし制作費	50,112	50,000	112
・ <b>会員委員会</b>	<b>1,165,133</b>	<b>1,500,000</b>	<b>△ 334,867</b>
・調査費	0	10,000	△ 10,000
・名簿発送費	0	10,000	△ 10,000
・会員交流事業費	656,252	1,000,000	△ 343,748
・同期会援助費	84,881	50,000	34,881
・支部援助費	380,000	380,000	0
・懇親会参加促進費	0	0	0
・同好会援助費	0	0	0
・伯友会ジュニア促進費	44,000	50,000	△ 6,000
・ <b>情報管理委員会</b>	<b>67,500</b>	<b>70,000</b>	<b>△ 2,500</b>
・システム保守費	67,500	70,000	△ 2,500
・その他	0	0	0
<b>③予備費</b>	<b>0</b>	<b>500,000</b>	<b>△ 500,000</b>
・予備費	0	500,000	△ 500,000
<b>合計</b>	<b>7,711,483</b>	<b>9,069,000</b>	<b>△ 1,357,517</b>
④繰越金(総合収支計算書へ繰入)	2,371,529	0	2,371,529
<b>当期支出合計</b>	<b>10,083,012</b>	<b>9,069,000</b>	<b>1,014,012</b>

## ● 総合収支決算

2018年4月1日～2019年3月31日

(単位:円)

	決算額	予算額	差異
①単年度終身会費収支高	2,504,029	△ 857,500	3,361,529
・終身会費当期納入額(192人)	8,640,000	7,650,000	990,000
・終身会費普通繰入金	△ 6,975,000	△ 6,975,000	0
・終身会費特別繰入金	△ 1,532,500	△ 1,532,500	0
・当年度繰越金	2,371,529	0	2,371,529
②前年度繰越金	42,343,969	42,343,969	0
次年度繰越金(①+②)	44,847,998	41,486,469	3,361,529

※1 終身会費当期納入者：新卒生等167人、61～75期 5人、51～60期 6人、41～50期 2

## 財産目録

2019年3月31日現在

(単位:円)

	当年度	前年度	増減
合計	44,847,998	42,343,969	2,504,029
・現金	155,416	158,500	
・郵便局 (会費納入受入口座)	20,130,114	18,743,074	
・普通預金/六甲伯友会(会費納入受入口座)	7,647,000	7,218,000	
・普通預金/決済用普通預金	16,221,883	16,003,883	
・普通預金/伯友会3	693,585	220,512	

## 伯友基金口座在高

2019年3月31日現在

(単位:円)

	金額
普通預金 三井住友/六甲	2,999,909
前年度繰越金	3,013,783
寄付収入	86,100
預金利息	26
六甲学院へ支払い	100,000

## 伯友奨学基金口座在高

2019年3月31日現在

(単位:円)

	金額
普通預金 三井住友/六甲	6,014,185
前年度繰越金	5,369,936
六甲伯友会からの繰入	0
寄付収入	1,105,000
預金利息	49
六甲学院へ支払い	460,800

## 第3号議案 「伯友チャレンジ基金」創設

## 1. 経緯と理由

昨年開催された「六甲大祭り」の本会計への戻し入れ金の一部1,000,000円を原資として、今後六甲伯友会会員が「六甲学院」のブランド価値を高める為の意欲的な事業を行う事等を支援する為、援助金を支出する目的で創設する。

## 2. 基金の内容及び運営方法

別記「伯友チャレンジ基金管理規約（案）」参照。

本規約は、2019年5月11日に創設された伯友チャレンジ基金の管理運営方法を定めるものである。

## 第1条（目的）

伯友チャレンジ基金は、六甲伯友会に所属する会員（以下「会員」という）の意欲的な挑戦を支援するため資金を支給する目的で設立された。

## 第2条（財源）

伯友チャレンジ基金は、六甲伯友会、会員、および六甲学院中学校・高等学校の教育理念に賛同するその他篤志家からの寄付金をその財源とし、随時、その寄付を受けることができる。

## 第3条（使途）

伯友チャレンジ基金は、会員が下記要件の一部または全部を満たす事業を行う場合に、特別の援助金を支出する財源とする。

(1) 六甲伯友会において例年行われる行事とは異なる形態・内容・規模の行事を実施する場合

(2) 六甲伯友会または六甲学院中学校・高等学校の発展や広報に特段の効果が期待できる場合

(3) 会員の研究活動・芸術活動として、多大な社会的意義が期待できる場合

## 第4条（管理方法）

伯友チャレンジ基金は、六甲伯友会会長（以下「会長」という）がこれを管理する。

2 会長は伯友チャレンジ基金について、帳簿を整備しこれを保存しなければならない。

## 第5条（支出方法）

伯友チャレンジ基金の支出は、第3条に定める事業を行う計画のある会員から要請を受けることを契機とし、その支出の時期及び金額は、六甲伯友会総務委員会の議を経て、会長がこれを決定するものとする。

2 前項に基づく伯友チャレンジ基金の支出は、当該会員に無償で支給されるものとする。但し、六甲伯友会と当該会員との間で別段の定めを取り決めることを妨げるものではない。

## 第6条（六甲学院中学校・高等学校との関係）

伯友チャレンジ基金は、六甲学院中学校・高等学校から独立して運営されるものとする。

## 第7条（会員からの報告）

第5条1項に基づき伯友チャレンジ基金から金員の支給を受けた者は、支給後一年後を目途に、その使途について会長に報告するものとする。

## 第8条（総会および幹事会への報告等）

会長は、第5条1項に基づき伯友チャレンジ基金から金員を支出したときは、支出後最初に行われる六甲伯友会の幹事会においてその経過を報告する。

2 会長は、六甲伯友会の定期総会において、伯友チャレンジ基金の運用状況及び年度末における残高を報告する。

## 第4号議案 会員名簿発行の見直しについて

### 1. 会員名簿の発行形式について

今回の会員名簿は、次の形式で発行するものとする。

- 各期の名簿に掲載する項目は、氏名・郵便番号・住所・電話番号・メールアドレス・勤務先・在校時のクラブとする。

※下線の項目については、会員から名簿記載依頼の申し出があった場合に記載する。(オプトイン)

※下線以外の項目については、会員から名簿記載拒否の申し出があった場合は掲載しない。(オプトアウト)

- 各期の名簿以外に、役員一覧・特別会員名・会則・個人情報保護方針・索引・広告を掲載する。

- 名簿の体裁はB5版、約380ページ。

### 2. 会員名簿の有償化について

従来は、伯友会会員で会費納入者に、無償で名簿を送付していたが、次回名簿については有償とし、希望者のみに販売することとする。但し、購入できるのは、伯友会会員で、会費納入者に限られる。(従来と同様)

販売予定価格 1冊 3,500円

※名簿発行に関して、伯友会の負担金は発生しない。

名簿発行専門会社に、名簿発行全作業を一括代行依頼する。

依頼を受けた会社は、会員データ整備及び名簿発行について、名簿販売、広告・名簿作成賛助金の収入で全ての経費を賄い、伯友会からの経費負担金は無いという名簿発行システムを利用する。

(名簿の販売冊数や広告収入の金額に関係なく負担金は無し。)

現在の国内において、同窓会名簿発行は、ほとんどがこの形態で発行されている。

### 提案理由・経緯

2012年度の名簿を発行後に、名簿掲載情報が外部に漏洩したため、個人情報保護の観点から2016年度の名簿については、氏名・在籍時のクラブのみ記載の名簿を発行した。

ただ、情報量が少ないため、見直しの意見が寄せられ、次回名簿についての形式の検討を重ねていた。

また、伯友会の財政面を考えると、伯友会の新規入会者(卒業生)が、約150名強に減ってきており、それに伴って会費収入が減り、財政的に支出を減らさないと厳しい状況である。従来通りの無償で配布するという方法で発行すると、年間約120万円の支出となり、大きな負担となる。

そこで、卒業生名簿としては一般的である「名簿を有償」で発行することにより、名簿発行のための支出を無くし財政の健全化をねらう。そして有償にすることにより、全員に無償で配布する場合に比べ発行部数が減るため、外部への情報流出も減るという効果も期待できるため、発行形式変更と有償化を提案するに至った。

## 第5号議案 2019年度事業計画

### ●総務委員会

- ①定時総会 2019年5月11日(土)於：六甲学院生徒研修所

- ②会議運営・資料作成・議事録作成

幹事会 年4回開催

2019年 4/6(土)、7/20(土)、10/12(土)

2020年 1/18(土)

常任幹事会年4回開催

2019年 6/22(土)、9/28(土)、12/6(金)

2020年 3/21(土)

上記日程にて幹事会、常任幹事会を開催予定。

- ③会費の徴収

- ④本会計・伯友基金・伯友奨学基金の管理

- ⑤伯友チャレンジ基金(仮)の創設、管理

### ●財政検討特別委員会

- ①財政状況のモニタリング

- ②収支バランスの継続的検討

### ●事業委員会

- ①学校事業への協力

- ・伯友文庫の充実

- ・OB 課外講義の実施(6月、10月)

- ・バザー協力：抽選会「伯友会賞」の提供

- ・体育祭：運営スタッフの活動支援

- ・強歩会：成績優秀者へのメダル・トロフィー授与

- ・卒業式：卒業生への記念キーホルダー授与

- ②対外事業

- ・イエズス会校同窓会連絡協議会：第36回会議  
於 六甲学院

- ・三校対抗サッカー大会：於 上智福岡

- ③伯友奨学基金造成

- ・基金のPR

- ④伯友会の歴史を記録する活動

- ・六甲学院別館所蔵資料の整理

今年度より、母校からの要請を受けて、六甲学院別館に残る昔の写真や小冊子あるいは部活動の制作物などの様々な資料を整理して、会員の方々にも見ていただけるようにするための「歴史を残す活動」に着手しました。夏までに分類整理を終え、今後は電子データ化を図るためにPCへの取り込みなどの作業を進めていきます。相当な時間がかかると予想されますので、会員諸兄のご協力を仰いでいきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

## ●広報委員会

- ① 会誌伯友 74 号（春号）、75 号（秋号）発刊予定。
- ② ホームページ、メールの維持管理  
Web サーバ、ドメイン、メールサーバ、SSL の維持管理、  
ホームページの充実化（無料告知ページ設置等）
- ③ 「同窓会活動のあらまし」発行、77 期生に配布（200 部）

## ■「伯友」秋号の継続送付希望者募集

財政の健全化へ向けて支出の削減は必須の課題です。印刷費および郵送費の削減を目的に、昨年は「伯友」秋号を希望しない会員を募りましたが、応募が少なく、その効果は限定的でした。そこで今年の調査で「送付を希望する」とご返答をいただいた会員にのみ来年の伯友会秋号を送付をすることと致します。

ご面倒ですが、引き続き送付を希望される方は下記の方法でお申し出くださいますようお願いいたします。

- ① 伯友会 HP（[www.hakuyu.jp](http://www.hakuyu.jp)）
- ② メール（[office@hakuyu.jp](mailto:office@hakuyu.jp)）
- ③ FAX（078-861-6573）
- ④ 同封のはがき

お申し出がない会員には、来年（2020 年）から会誌「伯友」をお送りしませんのでご注意ください。なお、後ほど再度送付をご希望される場合は、お申し出いただければ送付を再開いたします。

※会誌「伯友」は昨年より PDF 版を伯友会 HP（<https://www.hakuyu.jp>）で配信しています。

2018 年度の「伯友」は、春号（全会員に送付）9,900 部、秋号 6,200 部を発行しました。印刷・封入・発送の費用合計が 248 万円で、伯友会の財政支出の 1/3 を占めています。特に郵送費は今後も増加傾向にあり財政を圧迫する要因となっています。これらの事情をご理解の上、宜しくご協力の程お願いいたします。

なお、春号は今後も全会員に送付いたします。

## ●情報管理委員会

- ① 事務局パソコンの管理
- ② 関東支部とのビデオ会議実施  
本格的にビデオ会議の設備を導入するとともに、会議で使用する生徒研修所のインターネット回線を整備する。
- ③ 会員情報の方向性の検討  
費用対効果と情報セキュリティを配慮したうえで、会員に関する情報の管理の IT 化の検討や通信方法の検討を行う。

伯友会の常任幹事会・幹事会にて、神戸・東京の 2 拠点を結び、ビデオ会議を行っております。今年の総会・懇親会に向けては 51 期の関東メンバーにも参加していただき、総会懇親会の企画から報告まで、神戸の常任幹事会・幹事会と共有することができました。また、東京で開催されたイエズス会姉妹校 4 校長パネルトークの企画も、タイムリーに神戸と共有されました。

今後は、事務局に設置しているパソコン Windows 7 のサポート切れに対応していく予定です。

## ●会員委員会

- ① 総会懇親会実施支援
- ② 支部活動支援
- ③ 各期同窓会支援
- ④ 伯友会ジュニア活動支援
- ⑤ 77 期の情報収集
- ⑥ 会員名簿の発行に向けての作業

## 会員名簿発行について

2020 年度（11 月頃の予定）に、次回伯友会会員名簿の発行を予定しております。

2019 年度の伯友会総会で承認されました通り、次回からは①伯友会会員で ②会費納入者で ③名簿を希望される会員に ④有償で販売する、という事に致します。

この「名簿を希望者に販売する」という形式につきましては、現在名簿を発行している卒業生名簿はほとんどがこの形式で発行されています。

また、掲載項目も 2012 年以前の同窓会組織の形式（住所・電話番号・勤務先・在校時クラブ）にメールアドレスを追加して掲載する予定です。もちろん、それぞれの項目を掲載する・しないは、会員それぞれ確認のうえ、発行致します。

2020 年の初旬に、掲載項目及び名簿を購入するか否かの確認のための書類をお送り致します。この確認書類で、名簿に記載する情報だけではなく、伯友会会員のデータベースを最新化致しますので、是非ご返信、ご協力をお願い致します。

また、2020 年度発行の名簿につきましても、ご購入頂きすようよろしくお願い致します。

第6号議案 2019年度収支予算

●単年度収支予算案

2019年4月1日～2020年3月31日  
(単位:円)

	予算額(A)	2018年度		増減 (A)-(B)
		決算額	予算額(B)	
<b>収入の部</b>				
①会費収入	9,464,500	8,915,500	8,807,500	657,000
・年会費	300,000	408,000	300,000	0
・終身会費普通繰入金	6,975,000	6,975,000	6,975,000	0
・終身会費特別繰入金	2,189,500	1,532,500	1,532,500	657,000
②入会金	0	16,000	0	0
・新会員入会金	0	16,000	0	0
③雑収入	61,500	1,006,512	61,500	0
・預金利息	500	12	500	0
・雑収入	61,000	6,500	61,000	0
・寄付収入	0	0	0	0
・預り金	0	1,000,000	0	0
④名簿・広報誌制作協力費(広告収入等)	150,000	145,000	200,000	△ 50,000
・名簿広告収入	0	0	0	0
・広報誌広告収入	150,000	145,000	200,000	△ 50,000
<b>当期収入合計</b>	<b>9,676,000</b>	<b>10,083,012</b>	<b>9,069,000</b>	<b>607,000</b>

●総合収支予算案

2019年4月1日～2020年3月31日  
(単位:円)

	予算額(A)	2018年度		増減 (A)-(B)
		決算額	予算額(B)	
①単年度終身会費収支高	△ 1,514,500	2,504,029	△ 857,500	△ 657,000
・終身会費当期納入額	7,650,000	8,640,000	7,650,000	0
・終身会費普通繰入金	△ 6,975,000	△ 6,975,000	△ 6,975,000	0
・終身会費特別繰入金	△ 2,189,500	△ 1,532,500	△ 1,532,500	△ 657,000
・当年度繰越金	0	2,371,529	0	0
②前年度繰越金	44,847,998	42,343,969	42,343,969	2,504,029
<b>次年度繰越金(①+②)</b>	<b>43,333,498</b>	<b>44,847,998</b>	<b>41,486,469</b>	<b>1,847,029</b>

※ 終身会費普通繰入金 新卒業生見込(160-5)名×45,000=6,975,000

(単位:円)

	予算額(A)	2018年度		増減 (A)-(B)
		決算額	予算額(B)	
<b>支出の部</b>				
①一般管理費	3,186,000	2,566,800	3,114,000	72,000
・通信費	360,000	315,619	360,000	0
・事務員報酬	2,000,000	1,560,040	1,900,000	100,000
・事務用品費	460,000	421,996	450,000	10,000
・事務局警備費	106,000	103,680	104,000	2,000
・慶弔費	30,000	5,761	70,000	△ 40,000
・交通費	150,000	83,240	150,000	0
・プロバイダー使用料	80,000	76,464	80,000	0
②事業費	5,990,000	5,144,683	5,455,000	535,000
・ <b>総務委員会</b>	<b>300,000</b>	<b>251,645</b>	<b>330,000</b>	<b>△ 30,000</b>
・会議費	300,000	251,645	330,000	△ 30,000
・ <b>事業委員会</b>	<b>655,000</b>	<b>961,103</b>	<b>1,125,000</b>	<b>△ 470,000</b>
・学校事業協力費	145,000	135,804	145,000	0
・記念品制作費	340,000	323,514	340,000	0
・対外事業費	170,000	15,000	140,000	30,000
・伯友会75周年記念事業費	0	486,785	500,000	△ 500,000
・ <b>広報委員会</b>	<b>2,805,000</b>	<b>2,699,302</b>	<b>2,430,000</b>	<b>375,000</b>
・広報誌作成費	1,100,000	1,193,100	1,100,000	0
・広報誌発送費	1,350,000	1,288,427	1,100,000	250,000
・インターネット維持費	300,000	167,663	180,000	120,000
・伯友会活動のあらし制作費	55,000	50,112	50,000	5,000
・ <b>会員委員会</b>	<b>1,160,000</b>	<b>1,165,133</b>	<b>1,500,000</b>	<b>△ 340,000</b>
・調査費	10,000	0	10,000	0
・名簿発送費	10,000	0	10,000	0
・会員交流事業費	500,000	656,252	1,000,000	△ 500,000
・同期会援助費	80,000	84,881	50,000	30,000
・支部援助費	380,000	380,000	380,000	0
・懇親会参加促進費	130,000	0	0	130,000
・伯友会ジュニア促進費	50,000	44,000	50,000	0
・ <b>情報管理委員会</b>	<b>70,000</b>	<b>67,500</b>	<b>70,000</b>	<b>0</b>
・システム保守費	70,000	67,500	70,000	0
・ <b>その他</b>	<b>1,000,000</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>1,000,000</b>
・伯友チャレンジ基金拠出金	1,000,000	0	0	1,000,000
③予備費	500,000	0	500,000	0
・予備費	500,000	0	500,000	0
<b>合計</b>	<b>9,676,000</b>	<b>7,711,483</b>	<b>9,069,000</b>	<b>607,000</b>
④繰越金	0	2,371,529	0	0
<b>当期支出合計</b>	<b>9,676,000</b>	<b>10,083,012</b>	<b>9,069,000</b>	<b>607,000</b>

伯友会懇親会報告

神戸

5月11日(土)、神戸ポートピアホテルにて、2019年度伯友会懇親会を開催し、200名を超えるご来賓・OBの皆様にお集まりいただき、盛会のうちに終えることができました。

改めて、当日ご出席いただいたご来賓ならびにOBの方々、そして準備段階で様々なご助言をいただきました諸先輩方や伯友会事務局の方々、さらには強力にサポートいただいた52期の皆さんに、御礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

我々51期が準備を始めたのは、2017年の年末だったと記憶しています。定期的集まり準備を進めてきた期間は約1年半。「200名以上出席者を集めよう。」「特に若手にはたくさん参加してもらいたいね。」「せっかくだからこれを機会に51期もたくさん集めよう」。そんな話から準備はスタートしました。

そういった意味では、懇親会当日、全体で200名を超える方々にご参加いただき、20名を超える伯友会新入会員であ

る76期の皆さんにもご参加いただけたことを考えると、準備をはじめた当初の我々の想いを形にできたのではないかと、少しほっとしています。

また、今回の準備を通じて、東京と関西に住んでいる51期のメンバー(サポートいただいた強力な52期のメンバーも)をテレビ会議でつなぎ、月に1回、直前は月に2~3回、六甲学院の研修所や、大阪の貸会議室等も利用しながら、打ち合わせを重ね、会議がない日も、ほぼ毎日メールや電話でやり取りする日々を過ごしました。



古泉校長と山田ルイ 53世のトーク風景



懇親会集合写真

振り返れば、あっと言う間の1年半だったように思いますが、こうした準備期間を通じて、改めて51期の絆や縁といったものを実感として肌で感じることができました。また、懇親会当日も、北海道・九州・東京等から、ポートピアホテルに約50名が集結できたことは、卒業25周年の同窓会としても非常に有意義な時間を過ごすことが出来ました。

私自身、幹事代表でありながら、準備を始めた当初は、今回の幹事の役割は、六甲学院の卒業生としての「義務」だという思いが強く、どちらかといえば、懇親会の準備という「業務をこなす」という意識で取り組んでいました。

しかし、51期の仲間との打ち合わせや飲み会を重ねる中で、旧友との昔話に花が咲き、母校に複数回訪問する中で、懐かしい六甲学院の空気を吸い、お世話になった先生方とお話しする機会を通じて、いつの間にか「業務をこなす」という感覚から、「自分の育ってきたルーツを探る作業」をしている感覚になっている自分に気づきました。

特に印象深いのは、ある日、古泉校長先生との打ち合わせのために母校を訪問させていただいた際、第一グラウンドの石碑に刻み込まれている武宮初代校長の言葉をなんとなく眺めていると、「過ぎ去り消え去っていくものの奥にある永遠なるもののことを静かに考えよう」という言葉に吸い込まれました。在学中はこの石碑の前を何度となく通り過ぎていましたが、卒業して約25年経った今、改めてこの言葉に、はっとさせられました。

六甲学院を卒業し、一人の社会人として、地域人として、家庭人として、日々時間に追われながらバタバタと生活している状況に、なんとなく満足している自分に対し、日々の忙しさに甘んじて「本質（奥にある永遠なるもの）を見失っていないか？」という問いを投げかけられ、改めて自分を振り返る機会をいただいたような感覚になりました。

また、懇親会の準備の中で、校歌・讃歌をパソコンで入力しながら、その文字を目で追っていると、「誇りも高き我が母校」「たましいの故郷(さと)我が母校」というフレーズに、

なぜか胸が熱くなるという不思議な感覚も味わいました。

今の自分は、六甲学院の卒業生として、仲間や家族に誇れる自分であるかどうか、在学時代に思い描いていた将来の自分になりえているのかを問われている、そんな感覚にもなりました。

六甲学院を卒業して、六甲学院と、そして51期の仲間と、ここまで密に関わったのは、卒業以来始めたかったように思います。自分が六甲生であるということ、自分が51期であるということ、改めて実感するとともに、誇りさえ感じることができ、さらにこの1年半は、自分自身が、これからの人生を歩んでいくうえで、仲間とともに、過去を振り返り、現在地を確かめることができた、個人的に大きな刺激と学びがあった貴重な時間でした。

最後に、改めて、我々51期にこうした機会をいただいた六甲伯友会の石光会長ならびに諸先輩方や事務局の方々に、御礼を申し上げたいと思います。

そして1年半、お仕事やご家族との時間をやり繰りしながら協力してくれた51期のメンバーに、感謝！！そして、これからも末永いお付き合いをよろしく！！

・・・次回は、卒業30周年パーティーかな！？

(51期 久留島 聡 記)



乾杯は勿論ルイ 53 世

## 伯友会懇親会報告

### 東京

#### 関東支部懇親会を終えて

「ごめん、デュッセルドルフ転勤が決まってるん」

思えば、あの田崎の一言から我々 51 期の幹事メンバーが本気になって準備を始めたといったらよいだろう。

2018 年 6 月に関東支部懇親会の幹事会を立ち上げてからは月 1~2 回集まって議論し、その後飲みに行くのが楽しみだった。もとい、それが目的化していたともいえよう。まだ学会会のノリに過ぎなかったのである。それが、卒業以来ずっと 51 期のみならず伯友会の活動を手伝ってきた田崎にドイツ赴任の辞令が出て、関東支部懇親会の 1ヶ月前にドイツへ転勤をするという。定例飲み会でしかなかった幹事一同に切迫感が一気に迫ってきたのだった。

という経緯から語り出すと長くなり、かつ個人的になってしまうため、我々が企画したものについて評価と運営面での課題と工夫を中心に簡単に書くこととする。

#### <開催日時>

2019 年 7 月 6 日 (土) 16:00 - 18:00

#### <開催場所>

上智学院 2 号館 5 階 学生食堂

#### <出席者>

当日参加 137 名 (うち事前申込 130 名、幹事 51 期 20 名)

#### [来賓]

上智学院より 佐久間 勤理事長、サリ アガスティン常任理事

六甲学院より 古泉 肇校長、外川直見先生、岩井直行先生

最初に、関東支部懇親会の中で我々 51 期が初めて実施した取り組みについて、書きたいと思う。幹事期の先輩方がそうであったように、我々 51 期も六甲にどう貢献するのか独自性を考えた。その結果、上智学院と六甲学院の関係性を出席者に考えてもらうこと。

関東支部懇親会を過去に上智学院で実施した例はあったそうだが、おそらく今後しばらくは上智学院で実施することになるであろう。上智には佐久間勤理事長(27)がおられ、六甲学院には古泉肇校長(30)がおられるというタイミングもあった。そこで、改元とともに勉強会の名前も一新し、「東



上智大学からの眺め

京令和塾」では上智学院が傘下 4 校に対してどういう取り組みをしているか、佐久間勤理事長にお話していただいた。姉妹校 3 校の同窓会幹事にも、ご参加いただき、それぞれが実施している取り組みを紹介していただいた。

次に独自性を出す企画として、本懇親会幹事を務めてくれた 51 期中口俊哉教授に講演を行ってもらった。中口教授は上智学院出身でもあり、現在千葉大学フロンティア医工学センターに所属して教鞭を取っている。我々 51 期幹事は当日の運営のため「拡張現実感 (AR) 技術で未来の医療を変える！」という講演を聞くことはできなかったが、講演後に個別に質問される方が何名もおられ、また六甲学院でも生徒向けに講演を行う予定があるなど、大変に好評であった。

懇親会では、「若手起業家ライトニングトーク」を実施した。幹事メンバーに IT ベンチャー企業の社長が 4 名いるため、スタートアップ界隈で活躍している六甲 OB を集めやすかったことや、若手 OB を積極的に呼びたいという方針があったことで、本企画を実施することになった経緯がある。63 期荻原知祥君 (株式会社 Scalar)、69 期羅悠鴻君 (株式会社東京)、72 期八代恭輔君 (株式会社 Emostyle) の 3 名が協力してくださった。それぞれに興味深い事業をがむしゃらに推進している姿に、会場からは、「若手が活躍していて六甲は将来有望だ」、「もっと時間を取ってじっくり聴きたかった」という声が聞かれた。

以上が関東支部懇親会の概要である。参加者へのアンケートを行なったが、有効回答率は 10% 程度であった。中には非常に辛辣で辛口な回答もあったが、概ね好印象の回答



懇親会集合写真



懇親会の様子

が多かった。また、懇親会の企画にそもそも期待がそれほど高くないこと、同期や知り合いと再会することを目的としている。などの意見もあった。一方で、中口准教授の最先端医療に関する発表や、20~30代の起業家の討論に対して非常に高い評価が多かったことが嬉しい。どんな企画を実施しても各OBが期待するものは千差万別であり、賛否両論が出る。今後の後輩幹事たちには、自分たちがやりたい企画を好きなように進めてもらいたいと思った。

運営面で一番の課題は新しい会場のロジスティクス周りであった。初めて依頼するベンダーに注文する料理の種類と量、酒類とそれ以外のドリンクとの量とバランスには頭を悩ませた。また、席の配置、ステージやマイクの場所など上智大学生たちがランチを食べている横で下見を実行し、図面を起こして配置を検討した。最終的には51期の参加者が20名と52期の7人が受付・会計担当として手伝ってくれ、事なきを得たが、前日までスタッフの確保に本当に頭を抱えていた。

ここまでの思考の過程や意思決定をすべてウェブベースで実行したこともひとつの挑戦だったといえよう。幹事達にはオンラインチャットツールであるSlackの利用を義務付け、すべての書類はGoogle Drive上で作成し、各自のタスクはGoogle スプレッドシートで管理した。会社のPCでそのようなツールの使用を許可されていないメンバーには、プライベートのスマホや自宅のPCから作業することを強いることになり、負担をかけたことは自覚している。ただ、この運営方法が会社や組織が異なるメンバーが集まって行うプロジェクトを遂行するには効果的だと確信している。

最後になったが、運営にアドバイスをくださった方々、運営を手伝ってくださった方々にお礼を申し上げたい。伯友会関東支部塩村先輩、助言いただいたお陰で成功裏に終えることができました。昨年幹事の50期川原先輩、山下先輩、お二人には何かとご支援いただき、本当にありがとうございます！52期水原さん、宇佐美さん、打浪さん、木田さん、久保さん、三宅さん、皆さんが受付・会計を手伝ってくれなければ、運営は難しかったのです、本当に助かりました！最初から幹事として手伝ってくれた51期島田、田崎、工藤、木元、向井、井本、古川、岡、中口、前田、蓮尾。それぞれに仕事が多忙な中、私が仕事のタスク並みに期限を厳しくしたにも拘らず対処してくれたお陰で、予想より多くの参加者を得、新しい会場での運営を成功させることができました。本当にありがとうございます！ (51期 尾藤太郎 記)

## 支部だより

伯友会会員で構成される地域・職業・職場など支部活動されている方々の記事を掲載致します。また、これから活動したい人が同志を募る場としてもご利用下さい。

### 第14回中部支部報告

開催日 2018年10月20日(土)  
 場所 割烹「みどり」  
 ご来賓 古泉校長(27)、濱田伯友会副会長(27)、石井 宏武会員委員会委員(54)  
 参加者 坊野 稔(3)、赤松 宏(12)、浦川龍男(21)、一色忍(28)、松崎善樹(32)、牧村行隆(33)、大原弘隆(35)、熊谷正樹(35)、山下雅司(36)、萩原 勉(42)、末松芳章(54)、井上晋平(56) (敬称略)  
 中部支部事務局 井上洋一支部長(33)、武藤淑郎(29)、山森康雄(34)、南 正治(35)、船越真琴(36)、福田裕章(43)、黒田隆文(55)、阪田哲史(59) (敬称略)



当日は、ご来賓として古泉校長先生、伯友会の濱田副会長と石井宏武さん、中部支部からは新たに33期牧村行隆さん、42期萩原 勉さん、54期末松芳章さんの3名の方の初参加があり、総勢23名の参加者でした。

会員諸氏の強い希望で、ここ8年間、毎年開催してきたことにより、中部支部総会が、かなり定着してきたお蔭と思っております。

総会では、支部長の33期井上洋一さんのご挨拶に始まり、古泉校長先生よりご挨拶いただいた後、最年長の3期坊野稔さんに乾杯の音頭をお取りいただきました。また、恒例により、ひとりずつ近況報告を行いました。3期から59期ま

<h2>松川神経内科</h2> <p>〒650-0004 神戸市中央区中山手通4-3-11 松川悦之 (35期)</p> <p>TEL (078) 231-6018, FAX (078) 241-9988                  E-mail :shouzenkai@peace.ocn.ne.jp (松川神経科)                  E-mail :sumamatsunosato@kxd.biglobe.ne.jp (すま松の郷)</p>	<p>関連施設                  介護老人保健施設  <b>「すま松の郷」</b>                  〒654-0121 妙法寺榎原2-1                  松川智之 (38期)                  TEL (078) 741-8585                  FAX (078) 741-8586</p>

での幅広い層の方の様々な話が聞け、少人数ならではのアウトホームな雰囲気、楽しい一時を過ごすことができました。

また、総会後は、カラオケボックスでの2次会に、9名の方が参加し、自慢の喉を披露しました。

中部地区は、会員数約200名と少ないですが、総会参加率は、支部の中で最も高いと言われております。六甲卒業生間の人の繋がりが広がるのが、中部地区の企業の活性化に繋がっていきと考えます。今後も新たな参加者を募って、伯友会中部支部の輪を一層広げていきたいと思っておりますので、多数のご参加をお待ちしております。

(35期 南 正治 記)

### ロサンゼルス伯友会報告

開催日 2018年12月28日(木)

場 所 Sea Empress Seafood Restaurant (ロサンゼルス郊外ガーデナ市)

参加者 左から陳 敏生(35)、藤野秀樹(15)、森下秀明(42)、岡田健一(29)(敬称略)

今回も忘年会を兼ねて懇親会を開催し、各会員が近況を話しました。事務局からいただいた伯友73号と神戸っ子の配布もしました。

カリフォルニアにはアメリカ生活が長い、経験豊かな卒業生がたくさんいます。留学、駐在、旅行等でアメリカに来られる際は、是非お知らせください。歓迎会をさせていただきます。

(42期 森下秀明 記)

morishita@mmsystems.com



### ニューヨーク伯友会

開催日 2018年10月10日(水)

場 所

参加者 後列左より時計回りに 樋口(64)、三宅(40)、

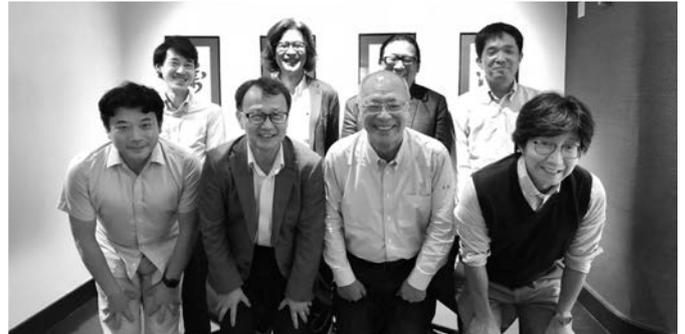
滝浦(39)、市川(55)、川合、森(36)、瀬戸(35)、久保田(46)(敬称略)

新たにニューヨークへ来られた方々もおられて、近況報告から学生時代の思い出話まで楽しい時間となりました。

ニューヨーク伯友会は定期的に懇親会を開催しています。転勤、留学等でニューヨークにお越しの際は是非ご連絡下さい。

(55期 市川寿史 記)

hisafumiichikawa@gmail.com



### MUFG伯友会懇親会開催報告

開催日 2019年3月1日

参加者 安田(36)、伊藤(37)、下奥・末広(42)、喜田(43)、伊東(45)、前川(50)、田崎(51)、中島(58)、中道(61)(敬称略)



MUFGでは六甲OBの懇親組織があり、商銀、信託、証券で国内、海外合わせて約50名の方に登録いただいています。今回10名が集まりました。

MUFGにお勤めの方は是非ご連絡をお願いいたします。また、62期以降は特に情報が少なく、こちらをご覧になられた方で、同期やお知り合いでMUFGに勤めている方をご存じであれば幹事の田崎までご連絡をお願いいたします。

(51期 田崎朋広 記)

tomot1975@gmail.com

## 東淀川井高野郵便局

〒533-0001 大阪市東淀川区井高野1-33-39

局長 三千敏弘 (36期)

TEL(06)6340-6681, FAX(06)6340-5974

## 足立優歯科・神戸デンタルドックセンター

〒658-0072 神戸市東灘区岡本1-3-33

院長 足立 優 (36期)

TEL(078)411-0024, FAX(078)411-0056

URL: <https://www.adachi-dental.jp> E-mail: [info@adachi-dental.jp](mailto:info@adachi-dental.jp)

# 会 員 探 訪

この欄では、各界で活躍する伯友会会員の会社や事務所などを訪問し、直接本人から話を聞くという、突撃インタビューです。会員の生の声をお伝えしたいと思います。



ファイル No.	16019
氏 名	酒井俊弘 (さかいとしひろ)
六甲時代	35 期 生物部

大阪教育大学卒業  
 小学校の教員として3年半勤務  
 イタリア・スペインへ神学のため留学  
 オプス・デイ\*司祭に叙階後帰国  
 オプス・デイの日本事務局長を経て  
 現在カトリック大阪大司教区 補佐司教

———酒井司教にとって叙階された補佐司教とはどのような役職なのでしょう？

私は、2018年7月16日に補佐司教として叙階されました。この補佐司教というのは、大司教区に限られて置かれる役職で、大司教を補佐する役割を担っています。日本だと、国内16教区のうち、東京、大阪、長崎の3つが大司教区で、大司教と補佐司教が置かれるのがほぼ慣例になっています。ただ、常に置かれるわけではなく、長崎ではここ10年以上は不在でしたし、東京も今は居ません。大阪大司教区も、しばらく居なかったのですが、昨年、アベイヤ司教と私の二人が任命されました。

任命権は教皇がお持ちなので、知らぬは本人ばかりで(笑)、私にとっても全く青天の霹靂でした。補佐司教というのはまさに大司教を補佐するのですが、どう補佐するかまでは決まっていません。世界的に大司教区にはたくさんの補佐司教が居ますが、それぞれの教区の実情に合わせて、大司教を補佐

するということになりますね。

日本の教会の歴史の中で、1つの大司教区に2人の補佐司教が任命されたのは初めてのことです。教皇フランシスコが任命された事ですので、あくまでも想像ですが、大阪大司教区の前田万葉大司教が枢機卿に任命されたことで、大司教が忙しくなられても大阪教区として頑張ってもらいたいということもあるでしょう。

———具体的にどのようなことを補佐するのでしょうか？

前田大司教が枢機卿として、バチカンの1つの委員会の委員になられたので、少なくとも年に一回はローマに行かなくてはなりません。また、先日は教皇の特使として、教会の公式行事のためフィリピンに行かれました。このように大司教の教区での仕事以外の仕事が増えたので、補佐が必要なんでしょうね。

ちなみに、新任司教はローマで2週間の研修を受けないといけないのです。私が行った去年の9月の研修期間中に教皇との謁見がありました。集

まった70人くらいの新司教一人ひとりに挨拶をされるのですが、そこで「補佐司教に任命された酒井です」とご挨拶したところ、教皇様は覚えておられ、「前田司教をしっかり補佐してください」とはっきり言われました。ですから補佐をするということが一番の仕事なのでしょうね。現実には私が何を補佐しているかという、アベイヤ司教様もいらっしゃいますので、二人で分担をしています。他の国だとテリトリーで分けるという例もあるんですが、大阪教区の場合は、アベイヤ司教様は難民問題、正義と平和、カリタス等の「社会福音化部門」のいろいろな委員会のトップに、私はカテキズム(公教要理)や典礼の勉強会等「教会福音化部門」を担当するようにしています。そういう形でいろんな委員会のお手伝いをしながら、補佐していくということですね。

あとアベイヤ司教様が私より年上ですので、彼が司教総代理ですね。代理は何人も居るんですが、総代理は、前田枢機卿大司教が何かで教区を離れる時の代理として権限を持っているということですね。

———具体的にどのようなお仕事をされているかお話ください。

私は今、大阪大司教区の事務局長をしています。月曜日から金曜日の9時~5時は事務局に居て、いわゆる事務の仕事をしています。日曜日はいろんな教会に行ってお世話をしたりしています。教区としては教区を運営して行く顧問会、宗教法人としては責任役員

**\*オプス・デイ**

ローマ・カトリック教会の区割り組織の一つ、属人区。  
 地域によって分けられる教区(属地区)とは異なり、属人区長のもと全世界的に活動を展開する。

掲載広告募集中

**神戸サン司法書士事務所  
 神戸サン相続遺言相談所**

〒650-0031 神戸市中央区東町116番地の2 オールドブライト4階

司法書士 **渡邊三郎** (49期)

TEL (078) 333-0088, FAX (078) 333-0038

E-mail: watanabe@westkobe.com

会があるのですが、そういう顧問会なり責任役員会なりのメンバーとして教区の責任を一緒に担っています。

その他は、日本の司教団全体の中で、日本の教会全体の委員会というのがたくさんありまして、その担当司教というのが居るわけですね。私は今年の2月から日本全国のカトリック教会の「諸宗教対話委員会」の責任司教になりました。バチカンにそういう委員会があって、その日本担当みたいなものが必然的に必要になって来ます。諸宗教というのはいわゆる普通宗教と認められるもの、多くの国で法人格を持っているような宗教すべてを含みます。日本でいうと、神道、仏教以外にも、新宗教と言われる例えば金光教であるとか、大本教であるとか、天理教とかですね。その宗教者たちとの懇話会というのがあり、他の宗教の人たちと、例えば一緒に平和行進をするとか、平和の祈願をするとかを、カトリックの担当者として参加しています。

そのほかには、「学校教育委員会」があります。この委員会の責任司教は前田大司教なんですけれど、私はその担当司教を務めています。「学校教育委員会」というのは、全国のミッションスクールを総括するもので、全体研修会をしたり、カトリックとしてのアイデンティティを保つお手伝いをしたりしています。バチカンにも「学校教育委員会」があって、そこから世界に向けて発信する文書が来るわけです。それを日本語に訳してみなさんにお知らせしたりするのです。そういう点では、非常に役所的ですね。

あとはこれらに加えて、教皇訪日の広報担当司教に先日任命されましたので、日本でのプレス等の対応をすることになると思います。実際に記者会見

をするのはバチカンから来るプレス担当の人たちがします。メッセージを発信したり、日本語での対応をしたりするのは、もちろん私一人ではなくて、何人かの担当が付いて仕事をしているところです。

どれも一人でやり切れる仕事ではありません。例えば大阪教区の事務局であれば、大阪は本部事務局職員が20名ちょっと居ますし、それぞれの委員会には司祭も信徒の委員の方もいらっしゃいます。「学校教育委員会」ならそれぞれの学校からの委員の方々が、委員会の運営を担っています。

私自身が1から100までをやるとか、全体を引っぱるというよりも、司教として教会の全体の流れの中で間違った方向に進まないよう、方向性を示すという役割は有ります。でも事務的にすごく忙しいということではないですね。

———今、最も力を注がれているお仕事はどのようなことでしょうか？

これは、難しい質問ですね。教区の司教、いわゆる教区長であれば教区としてこういう方針でやりましょうということになるんでしょうけれど、補佐司教はあくまで補佐なのです。大阪教区の事はもちろん前田大司教が指導されますし、委員会の仕事はバチカンの方針・指示があるので、私が何か特別に発案して、目標を立てて、何ヶ年計画で…ということは無いですね。もちろんそういう特色を出してもいいのかもしれませんが、今のところそういうことを私はしていません。まだ去年叙階されたばかりですので。あえて言うなら、今まさに教皇の訪日というテーマが、最も仕事の中心になりつつありますね。前回は38年前で、次回が同じぐらいのインターバルだとしたら、司教として経験するのは一生に一回で

しょうから、それは確かに大きな事だと思っています。これは、もう日程が決まっている事ですから。11月に来られる前後が一番いそがしくなる事でしょう。それが現実問題としては今の中心であると思います。

また、補佐司教はいつまで補佐司教かということ、これはまた全く分らない事です。基本的に補佐司教はその教区長とセットなので、ずっと補佐司教というのは珍しいんですね。補佐司教を何年かして、その同じ教区か、あるいは他の教区の教区長になるというパターンが多いです。ただ、これは教皇がお決めになる人事なのです。前田大司教の定年までの5年間はさすがに動かないとは思いますが、これも何の確認もないですよ。そういう意味でも5年計画的で私が何かをするというのは考えないですね。カテキズムのクラスという、今年、4年計画で私が担当を始めた事はありますけれど、それも別に私が居なくても誰か代わりにやればいいわけですしね。

———司教の任命というのはどのような手続きでされるものなのでしょうか？

教会全体で言いますと、基本的には会社と同じで、人事課にあたる権限のある人が、この部署空いたとか、新しい部署を作るぞという時に、誰に担当してもらおうかということを決めるんですね。昔は確かにどの教会の神父になるかとか、どの修道会に行くだとか、全部上が決めた事を全く従順に進めていましたが、今の時代はさすがにそうではなく、一応打診をして、「こういう事を考えていますけどどうか」、「いいですよ」、という手順を取るのが普通ですね。ただ、任命権は上の人にありますから、どうしても厭だしたら組織を出ないと仕方がないということになります。

## 株式会社 マヤテック

〒650-0024 神戸市中央区海岸通5 商船三井ビル

代表取締役会長 五代友和 (15期)

TEL (078) 391-3721, FAX (078) 391-3927



## 宮野医療器株式会社

〒650-8677 神戸市中央区楠町5丁目4番8号

取締役会長 宮野 淳 (19期)

TEL (078) 371-2121, FAX (078) 371-2309, E-mail: a.miyano@miyano.co.jp  
URL: <http://miyano.co.jp/>

順序としては、まず内示があって、次に正式な通知が文書で来るというのが普通ですね。神父の場合は任命式はないですけど、司教は別です。司教の任命権は教皇にあるからです。

ただ、教皇が司祭全員を知っている訳ではないので、各国のテリトリーの中で誰を司教にするのかは、各国の教皇大使、いわゆる教皇庁の大使の所に情報が集められます。現役の司教や他の司教達に候補者リストとともに「反対意見は無いですか」、「他にいませんか」という質問が回ります。その結果が教皇大使の所に集まります。教皇大使はその候補者が、修道会に属する司祭だったら、もちろんその修道会の総長にも聞きますし、信徒の意見や、シスター達の意見を聞いたりして情報を集める訳ですね。そして、最終的にローマ教皇には、この教区の司教なり補佐司教なりの候補者を少なくとも3人、しかもそのうち少なくとも1人は教区司祭以外の人を入れたリストを送らなければいけないのです。その中からローマ教皇が決めます。一応優先順位が付いていますから、普通は1番の人が選ばれます。

そのプロセスの内容を本人は当然全く知らない訳ですし、司教になりたいと言って手を上げるシステムは無いんです。ですから司祭になった以上は誰でも司教になる可能性はゼロではないんですけども、教区の神父で、留学して語学も出来て、この人は将来き



と司教になるだろうと言われている人は居ますから、そういう意味じゃ予想は出来るかもしれません。しかし、そうでない場合も多いです。今回の場合なんかは、アベイヤ司教も私もどちらも教区司祭ではないので、全く予想外でした。

ある日突然電話が掛かって来るわけですよ。「教皇庁大使館から教皇庁大使がお話したいことがあるんで、来てください」って呼び出されたんです。呼び出されるというのは、よっぽどいい話か、よっぽど悪い話か…。教皇の代理が折り入って話がしたいと、内容は言わずに東京まで呼び出された訳です。確かに司教の任命と言う可能性はあるので、それは当然頭の片隅に置いて行ったんですが、仮にそうだとしてみても行ってみないとどこのどんな司教か全く分かりません。そこで内示を受けるわけです。私の場合、「教皇様は、あなたを大阪大司教区の補佐司教に任命されました。ついてはここに紙がありますから了解の返事を書いてください」と、(全員大笑い)。ただ、「出来ません」という返事をする事は可能なんです、当然ね。だから呼び出される訳ですよ。いきなり任命書が来るわけではなく、当然本人が了解してはじめて任命書が来る訳ですから。ただ、教皇が決定するという事は最終決定なんです、必ず。私はオプス・デイという属人区に属する司祭だったわけですが、それこそ私がオプス・デイの属人区長に相談する必要も無いのです。「呼び出しを受けて、司教に任命されるかもしれません。どうしましょうか」と言いましたら、「それは自分独りで考えて決めなさい、相談する必要は無い」と。教皇の任命ですからね。

ただ、仮に任命の打診を断っても、

会社でいわれるような「干される」というようなことは全くないです。当然守秘義務が両方にありますから、「この人は教皇から内示を受けたれども拒否したよ」という事は公にはならないのですが、「あの人は次の司教と目されています、どうもそういう話があったみたいだけれども、本人が辞退したらしい…」という噂を聞くことはありません。

———教皇からの司教任命を聞かれたときに、どういうお気持ちでしたか？

まあよっぽど悪い話の方ではなかったんで、その時はまずほっとしましたね。それこそ「お前、こんな悪い事したからクビだ」みたいな話はある得ますからね。だからそうではなかったのほっとしたのと、大司教区で補佐司教が必要だというのも分るので、「そういうことなんかなー」という印象でした。ただ、ちょっと教皇大使に抵抗はしました。

今の教皇大使は、チェノットウというインド出身の教皇大使ですごく優しい明るい朗らかな方ですけど、「私は教区司祭でもないし、司教にふさわしくないとします」と言ったんです。そしたらチェノット教皇大使も、「いや、誰も司教にふさわしい者など居ません。任命されて、受けて、それから頑張るものですから」と。

とくに僕も司祭としてオプス・デイ本部の事務局長を務めていましたので、「今度こっちへ行ってくれ」とか、「こんな仕事をしてくれ」とかを言ってきた立場だったのが、逆に自分が言われて、「そんなん厭ですとはちょっとよ言わん」というのもありましたね。皆さんも、会社や、結婚もそうだと思うんですけど、そうなるまでは『したいこと』なんだけれど、そうなってしまったら、後はそれに従うしかない。

掲載広告募集中

## 高石内科クリニック

〒654-0121 神戸市須磨区妙法寺字界地 82-2

高石 務 (13期)・高石博史 (45期)

TEL (078) 741-2052, FAX (078) 741-7588

そうになったからには言われることをしていかないと…。それが『なった責任』だと思えますね。

———組織人として、会社でいう部下を持ってやってみたいとか、出世したいという気持ちはありましたか？

一人ひとり違うと思いますが、基本的に司祭になろうという人は、やはり信者さんの世話をしたいのだと思います。司祭として出来る、司祭にしか出来ないことがあるとしたら、ミサをするのもそうだろうし、霊的な指導をするのもそうだろうし、信仰の相談に乗るのもそうだろうし、いろんな教えるをするというのもそうでしょう。しかし、司教になるということはそういうことから離れないといけません。要するに管理職になるわけです。いわゆる現場から離れることです。もちろん今も私はカテキズムのクラスを持っていますし、信者さんとは付き合いが全くなくなる訳ではないけれども、いわゆる司祭のような付き合いは出来ません。やっぱり信者も司教様ということで当然構えますし、逆に司祭がやっていることに対して、司教が上だといって干渉することも出来ませんから、そういう点では現場から離れることになるので、司教になりたくてなる人はあまり居ないでしょうね。

でも絶対必要なものではあるので、誰かがならないといけませんし、もちろんそれなりの魅力と言いますか、いい面もあります。結果的に、司祭より司教になった方が、名前は残るわけですから、虚栄心を満足させる部分というのは当然あります。でもそれは中心ではないし、元々それを目指してたのではないので、逆にそれには気をつけないといけません。特に今の教皇は、いわゆる悪い意味での権威主義的な態度は慎むようにと口を酸っぱ

くして言われていますし、本当にそうだと思いますね。

———神父になりたいというようなことはいつ頃から考え始められたのでしょうか。

多分、みなさんもそうだと思いますが、将来何になりたいかというのは一つではなかったです。幾つかの選択肢があって、段々自分に向いているとか向いてないとか、色んな条件があるのですよね。

私の場合は幼児洗礼なのですが、自分の家族の信仰のルーツは、私の父親の妹である叔母です。私の父親は妹と二人兄妹なのですが、その二人は戦争で両親を亡くして、まるでテレビドラマのように親戚の間をたらい回しにされたみたいです。余り話さなかったですが、苦勞をして、教会の方に助けられたそうです。

叔母は、今の上ヶ原病院（昔のクリスト・ロア病院）という関学の近くにある結核の病院のクリスト・ロア修道女会のシスター達に大変お世話になったみたいで、そこで洗礼を受けて、そのままシスターになりました。クリスト・ロア修道女会のシスターになって、今は引退して御殿場の神山復生病院という所にいます。

父親は、妹が洗礼を受けて修道会に入ったことに影響を受けて、イエズス会のブラウン神父というドイツ人神父にお世話になって、六甲教会で洗礼を受けました。父はその2年後に結婚したのですが、その時に私の母は、いわゆる結婚信者と言いますが、結婚する時に洗礼を受けて信者になり、父親の社宅があった芦屋に引っ越しました。私には兄と姉がおり、兄は六甲教会で赤ちゃんの時に洗礼を受け、姉と私は芦屋教会で幼児洗礼を受けました。

私は小さい時から信者として生活を

して、教会でミサの侍者もしていました。そういう点では、神父への憧れは当然ありました。もう一方で、幼稚園の時、南極のペンギンの話の劇で、ペンギンの先生役をしたのですが、自分は先生の役に向いていると感じたんでしょうね。教師になりたいというのは小さい頃から思っていました。結果的に教員にも司祭にもなりました。

イエズス会の学校（六甲）に行ったのですが、イエズス会の神父にはなりませんでしたが、大阪教区で育ちましたが、大阪教区の司祭でもなくて、オプス・デイの司祭になったわけです。それは、変な言い方ですが「適当に頭が悪かった」からです（笑）。

私の父親は旧制中学だけ出たのですが、甲陽学院の出身でした。まだ甲子園球場の横に学校があった時代です。私の兄も、父親が甲陽出身だったこともあり、甲陽に入りました。私の姉は幼稚園から大学まで神戸海星に行きました。私も甲陽を受けるはずだったのですが、そこまで頭が良くなかったんです（笑）。次善の選択として、ブラウン神父様がおられ、カトリックということもあり、六甲でも受けるかという話になり、幸い合格しました。私の時は1学年180人くらいでしたが、私の成績はだいたい100番前後くらい。特に良くもなく、ちょっと悪い方でした。私はフリン学年で、フリン神父には本当にお世話になりました。私の入学時には、信者が7~8人でしたが、卒業の時は30人近くに増えました。同じ35期で司祭になった（今は東京の麴町教<sup>はなぶさ</sup>会で主任司祭を務めておられる）英神父は卒業してから信者になりました。彼は六甲在学中に洗礼を受けず、上智に入ってから洗礼を受けました。そういう、信者としては良い雰囲気

## 森本謙税理士事務所

〒657-0051 神戸市灘区八幡町2丁目6-11 サン六甲201

税理士 森本 謙 (49期)

TEL (078) 767-1601, FAX (078) 767-1602

E-mail: k-morimoto@kcc.zaq.ne.jp

## 非鉄金属 ワイメタル株式会社

〒675-1122 兵庫県加古郡稲美町中村1216

代表取締役 横山幹夫 (24期)

横山央祐 (49期)

TEL (079) 492-7314, FAX (079) 492-6599

中でしたが、そんなに成績も良くなかったですし、そんなに英語も出来なかったですね。ですから、イエズス会から神父になれという勧誘はなかったです。それほど私は目をかけられていなかったというのもあると思います(笑)。

そんな中、芦屋にはオプス・デイの本部があり、学生のお世話をしている神父達がおられ、お世話になって、惹かれたところもありました。そしてなんとなくズルズルと、オプス・デイとの関係が深くなって行って、高校生の頃からオプス・デイの見習いの様になりました。大学は教員になりたかったし、オプス・デイのメンバーが運営する学校がもうすぐ長崎に出来るということもありましたので、大学は大阪教育大学に進学しました。大学受験は共通一次試験が始まる前の年の二期校制でした。長崎に行きたいと思っていたので、一期校では長崎大学の教育学部を受けて落ちて、二期校で大阪教育大学を受けて入りました。大学卒業後に長崎に出来たオプス・デイの学校に、小学校の教師として採用されました。

オプス・デイは信徒中心という考えのもと、いきなり神学校に行って神父になるというより、何年か働いた方が良いという方針があるので、私はすでに生涯独身を守るメンバーではありましたが、取りあえずは自分になりたかったこともあって、教員として4年近く働いて、「神学校に行って、神父になる勉強をちゃんとしてみるか」ということになって、ローマで2年間、スペインで3年間勉強しました。

それまでも勉強は始めていましたから、少し早めに終わって、神父になって、博士号まで取って1990年、30歳の時に日本に帰ってきました。また学

校に復帰をして、学校の司祭として14年間そこで勤めて2004年に芦屋の本部に戻って、本部の事務職を中心にやっていました。

———小学校の先生になりたいと思われたのはどのようなきっかけだったのでしょうか？

私の大阪教育大学での専攻は、小学校課程の社会科の日本史でした。中高の教員免許も取りましたが、小学校の教員になりたいと思っていました。非常に高慢に聞こえるかもしれませんが、「この先生が素晴らしい」と憧れるより、「この先生教え方下手くそやな、この神父さんの説教おもしろくないな、自分だったらもっと上手に面白く教えられるのに」と思ったことが、先生になりたいと思ったきっかけです。もちろん好きだったのがあります。

———ローマでの勉強はイタリア語だったのですか？

当時は、今のように聖十字架大学という正式な学校がなかったので、オプス・デイで教育を受けました。オプス・デイの公用語は、スペイン語なので、ローマでの勉強もほとんどスペイン語でした。そのあとの3年間もスペインでの生活だったので、イタリア語は聞けばわかりますが、不自由なく使える外国語はスペイン語ですね。スペイン語はある程度勉強してから現地に行きましたけど、教員をしながらだったので、スペイン語を習得してから行ったわけではないので、苦労はしましたね。英語は、高校時代の出来は決して良くなかったですけど、フリン先生のおかげである程度はできるようになりました。

———六甲での外国語教育や国際性は影響ありましたか？

フリン先生の影響は大きかったですね。アメリカ人で明るかったですし。『プログレスイングリッシュ』の作者

でもあらわれて、尊敬もしていました。英語の弁論大会の参加者には選ばれませんでした。国籍を超えた国際的な部分を身近に感じることができたというのは大きいですね。ディアス神父にもお世話になりましたし、校長先生もドイツ人のシュバイツァー校長(第2代校長)でした。私が属した生物部では、スペイン人のアルシナ神父にもお世話になりましたね。

———六甲での生活で、どのような思い出がありますか？

武宮先生には直接お会いしたことはないですけども、校庭の石碑にある言葉の影響はあるんじゃないですかね。変わらないものを見つめ続けるというそういう精神、卒業してからもよく目にしては思い出しましたね。その他の思い出としては、体育祭や便番です。高2で中1の世話をする指導員(訓育)をしましたが、まさに教員になろうとした原点でもあるでしょうね。あとは文化祭で副委員長をしましたね。そんなことをするのが好きだったんでしょうね。

———神父の数が劇的に減っている今、六甲の宗教教育はどうなっていると思われますか？

実は、カトリックの学校教育委員会にも入っているのでもよくわかるのですが、それは日本中のミッションスクールの大きな課題なんです。神父やシスターがどんどん減っていますが、カトリックの看板を外そうと思っている学校はまずないんですよ。今の時代にそういうのが必要だろうということで、逆に、建学の精神に純粋に戻るチャンスと取っているのかもしれないですね。今までは目の前に建学の精神を実践する人がいましたが、そういった人がいなくなっていく。

それで思い出すことがあります…。

掲載広告募集中

六甲(成田)塾

〒657-0023 神戸市灘区高羽町5-9-10

塾長 成田俊一 (25期)

TEL & FAX (078) 851-6148

実は、昔ペルーに3か月ほど行ったことがあります。リマの日本人大使公邸占拠館事件で有名になった、オプス・デイのチブリアーノ司教がリマの大司教になられたときに、日系1世の人たちがみな高齢になり、日本の司祭として2世3世の世話をしてほしいと頼まれたんです。2世3世の人たちは、ペルー生まれペルー育ちだけど、日本に対してものすごく純粋な気持ちがあるんですね。現地に日本文化センターというのがあって、生け花、着付け、書道、柔道など、日本の文化を継承していこうという思いが強いです。日本に対する思いが真剣といいますか、原点といいますか。で、いつか日本に行ってみたいというんですが、日本に来ると失望するんですよ（笑）。だから、現場に神父がいなくなっても、武宮隼人先生の校訓というか、原点が残っているので、そういうものを忘れないでいこうという気持ちが強くなる…うまくいくんじゃないでしょうか。難しいかもしれませんが、決してマイナスばかりではないのではないかと思いますね。

——進学校としての六甲をどう思われますか？

次善の選択として入った進学校とはいえ小学生の受験ですから、甲陽に行った兄と比べてどうこうということは余りなかったですね。それほど深く引け目を感じることもないですし、入ったからにはそこを評価しないと意味がないと思っていました。逆に言うと、自分より頭のいい友達がたくさんいて、卒業してからも相談する医者が沢山いるとか、そういう点でいいことはありますよね。卒業生として、母校の六甲が学力的にがんばってほしいとは思いますが、それがメインでもないと思いますね。自分たちがいた頃の

いい雰囲気が保たれればいいなと思います。神父がいなくなって、司祭のいないミッションスクールというのは想像もつかないところではあるのですが、男子校として頑張してほしいですね。世界的にみるとイエズス会の学校も男女共学がほとんどですから、日本では栄光にしろ、広島にしろ、六甲にしろ、男子校として頑張っていますね。私たちOBが昔のようであってほしい願うのは大きなお世話かもしれませんがね。

——神父を先進国に派遣するというのは、時代遅れなのでしょうか。

先進国で今起こっている傾向が、過渡期なものか、完全にこれから衰退していくのか、未来のことはわかりませんが、信者数はともかくとして聖職者の数は確実に減っています。でも、新興国、特に東南アジアとアフリカの2つの地域は、信者の数も、司祭の数も、シスターの数もどんどん増えているんですね。現に日本でも、かつては宣教師と言えば、ヨーロッパからでしたけれど、例えば姫路の淳心学院の母体であるベルギー発祥の淳心会の中心は、今やインドネシア、インド、コンゴの神父が多いです。さらに新興国でいうとベトナムです。ここ玉造教会でも月に1回ベトナム語のミサがあるのですが、近所から苦情が来たんですよ。彼らは非常に熱心で、ベトナム語のミサの前に、聖歌を大きな声で練習したりするのでね。

——もしかしら、六甲の先生にベトナム人神父の誕生する時代が来るのかもしれませんが？

そうですね。とはいえ、今の日本は宣教師からあまり人気がある国ではないんですよ。日本はヨーロッパから見て世界地図の東端、いわゆる最果ての地。昔はそこまで行くだけのやりがいのある場所でした。99%未信者である

という、まさに宣教師意欲を駆り立てる場所であったのですが、今の日本は物質的に非常に豊かで、文化的にもレベルが上がってしまったので、宣教師が難しいのです。それでも、宗教心が乏しい、あるいはどんな神を信じているのかもよくわからない、という意味ではこれからも来て下さるとは思いますけどね。

——伯友会の会員として、これからどのような交流を望まれていますか？

私自身司祭としては、伯友会にはイエズス会の神父がいらっしゃるので、これまで伯友会や六甲と直接のかかわりはありませんでした。また、大学を出てから長い間長崎にいた事もあります。けれども、今回の「伯友」の取材や来年度の「平成塾」でお話しする機会をいただきましたので、今後どんなにかかわりが出来ていければいいと思います。

——俳句をご趣味にされているとお聞きしましたが？

芦屋教会で高校生会・青年会時代をご一緒させていただいた、日本伝統俳句協会の稲畑廣太郎先生や六甲の先輩がいらっしゃったりして、50の手習いで始めました。

日本の俳句界には、現代俳句協会・俳人協会・ホトトギス系の伝統俳句協会という3つの大きなグループがあります。私は教会のご縁もあって、その中の伝統俳句協会に所属しています。教会のつながりで入ったのですが、俳人で信者でない方々との交流はかえって新鮮です。例えば、「お父さんも神父さんですか」なんて聞かれたりするんですよ。そういわれると、カトリックの神父以外他の宗教者は、ふつうは世襲ですよ。世襲という保障がないのに、2,000年続いているカトリックはなかなか稀有な存在ですね。

## 南川和茂法律事務所

〒530-0047 大阪市北区西天満4丁目1番15号 西天満内藤ビル4階  
弁護士 南川和茂 (23期)

TEL (06) 6365-0400, FAX (06) 6365-0455  
E-mail: fwgk9736@mb.infoweb.ne.jp

## 弁護士法人 アーネスト法律事務所

〒651-0055 神戸市中央区熊内橋通7-1-13  
神戸芸術センター 2803号

弁護士 藤本久俊 (31期)

TEL (078) 265-0810 FAX (078) 977-8065

今度、私が司教になったこともあって、俳句関係者を対象に講演をする機会もできました。10月31日には、細川ガラシャについて話をします。

小学校では全科目教えるのですが、自分の研究科目を持たなければいけなかったんですね。僕は研究科目に国語を取っていたので、その関係で、お祝いや送別会のような時には、和歌とか俳句とかを贈ったりしていました。そういう言葉遊びが好きだったんでしょうね。長崎にいた頃にはフルマラソンに出るくらいジョギングもしていたのですが、「これは一生は続けられへんな」と思いましたね。体が壊れてもできる趣味ということで、縁を頼って教わるようになった俳句は、今ではいい息抜きになっています。

———今度の「平成塾」での講演はもしかして俳句のほうでしょうか？

いやいやさすがに司教としてのほうです（笑）。

———これからどのようなことに力を入れ

られたいですか？

当面は、目の前の仕事をちゃんとしなければいけませんね。ミーハー的に言うと、僕自身も教皇様に会うことはうれしいですが、むしろ教皇訪日を日本の信者さん以外の人達にどのようにして大きなインパクトを与えることが出来るのかというのが大きなテーマですね。イベントとしては、大手広告代理店に頼むことになるのですが、その担当者に信者が結構いるんですよ。彼らにとっては、自分がカトリックだと表立って言えるようになるわけで、カトリックの学校出身の人がメジャー感といいますか、誇りをもってといますか、今後も教会と関わりを持ってくればいいですよ。自分の普段の生活と全く関係のないものではないということなんかは伝わればいいなと思うんですよね。宗教は、確かにデリケートな話ではありますが、教皇も信者の人たちのためだけに来るのではないし、日本全体にメッセージを持って

くるわけですから、そういうことを伝えたいですね。

俳句はね、来年還暦なので、句集くらい出したいなと思っています。

———人生100年時代といわれるなかで、読者の皆さんにメッセージをいただけますか？

六甲で習ったこと、特に男性はそうだと思いますが、肩書があることに安心することもあります。仕事上の肩書にしろ、地域の肩書にしろ、教会での肩書にしろ、家庭での肩書にしろ、肩書きを離れたときの自分との向き合い方、処し方は、宗教とは言わない迄も、人間の本質にかかわることなので、そこを見落としていると、肩書をなくしたときに、生きていけなくなる。肩書を得るために頑張るのは素晴らしいことだけれども、肩書のない自分自身の育て方であり、保ち方であり、発展の仕方であり、楽しみ方であり、というのは何らかの形で伝えられたらなあと思いますね。



ファイルNo.	16020
氏名	西川圭史(にしがわけいし)
六甲時代	52期生 サッカー部から アメリカンフットボール部へ転部

東京大学法学部卒  
日本政策投資銀行 財務省  
(株)プレミアム・エデュケーション、  
(社)NS人材創造機構 設立  
ツエーゲン金沢 GM (ゼネラルマネージャー) 代理 (2011年)  
取締役 GM (2012年)  
代表取締役 GM (2014年)。

———六甲に入学したきっかけは何ですか？

小学生時代、5年生から行きだした塾は途中で辞めちゃったのですが、野球部には入っていました。でも、サッカーがすごく好きで、中学ではサッカーをしたいなと思っていましたが、地元の中学にはサッカー部がな

かったのが一つの理由です。もう一つは母が教育熱心で、父が大阪大学出身だったので、小さい頃から「京大に行きなさい!」と刷り込まれていたのと、姉も私立(親和)に通っていたので、なんとなく受験が身近にあったことから、中学受験をしようと思いました。

最初は灘を目指していたのですが…(笑)。ちょっとずつ成績が微妙になってきて、灘でケツにいるより六甲で上にいた方が…と親とかから言われて、六甲を選びました。

———六甲に入って、迷わずサッカー部に入りましたか？

もちろん、迷わずサッカー部に入りました。当時はイチセン(市川先生)が中学で、ツクセン(佃先生)が高校の顧問でした。

———中3になる時にアメフト部を作ったと聞きましたが、そのキッカケは？

僕が中1の時の指導員の先輩(48期:畑中輝さん)が、すごくアメフトが好きで「アメフト部を作りたい!」とずっと言っていて、一度作ろうとし



たけど上手く行かなかったという話を聞いていたのと、その頃、大学のアメフトの試合を民放でやっていたのを見たりしていて、なんとなく「アメフト、格好いいな」と思い始めていました。そうするうちに「サッカー部もな・・・」と感じになってきて、「じゃあ、アメフト部を作ろう!」という気持ちになったのがきっかけですね。

——畑原先生の話では、サッカー部数名が抜けて作ったとか。最初は5~6人だったと思います。結構引き連れて行きました!その後も数名が来た気がします。それも、レギュラークラスの人が多くて…(笑)。僕はキーパーで、新人戦に出して貰っていました。自分でキーパーをやりたいと思って始めたのですが、すぐに「フィールドにしとけば良かった…」と後悔したのもサッカーからアメフトへ興味移っていった原因の一つもあったと思います。

——サッカー部の主力級を口説いたわけですね!  
いや、口説いたって感じじゃなく、そういう流れになっていった感じですね。最初の頃は3~4人で練習していた記憶があります。「卒業するくらいまでに1試合でもできたらいいね」という感じでスタートしました。そこからは色々な仲間に声を掛けたりして、僕らの学年が中3、高1の頃には結構な人数(10数人~20人ほど)になりました。

——サッカー部に退部届を出したと思いますが、提出したのはツクセンでしたか?畑原先生は「ツクセンがOKを出したのが不思議」と仰っていましたが。  
退部届…出したのかな?出しますよね。でも、ツクセンにはなかったと思います。サッカー部を辞めることに対しての障害はなにもありませんでした。むしろ新しい部を作る方に色々問

題がありました。ある程度人を集めないといけないし、練習場所がないという問題もありました。グラウンドが既存クラブの練習場所で埋まっているので、今更結構スペースが必要な運動部なんて…という感じでした。第3グラウンドの野球部の水飲み場側の隅っこを使わせて貰うところからスタートしました。

——新規にクラブを設立する時は、何か特別な手続きがあるのですか?申請をする段階で、ある程度のメンバーは集めたと思います。アメフトを教えられる畑原先生の存在は大きかったです。僕が学生時代は、畑原先生はまだ社会人で、現役でプレーされていました。

——アメフト部初代キャプテンですが、「俺がやるわ!」という感じでしたか?  
そういう感じではなかったです。みんながなんとなく「西川で良いんちゃう」みたいな感じでした。

——キャプテンをするということは、その頃から成績も良かったのですか?成績は良かったです!だいたい1番とか、常に3番以内には入っていました。

——それは当然努力をしたのですよね。どういう努力をされました?  
予習はしたことがないのですが、復習は毎日2~3時間はかけてやっていました。中2の時のある数学のテストがすごく難しかったみたいで、学年の平均が30点くらいだったのですが、僕はケアレスミスで98点くらいで、「習った問題バツカリやのに、なんでみんなそんななん?」って思ったのは覚えています(笑)。

——東大に行っただけだから、卒業までその成績をそのまま持続したのですか?  
それがですね、高2の終盤から落ちだしたんですよ。アメフトの練習で体力を使うので、帰って寝て、12時くら

いに起きて、2~3時間勉強をするのですが、ほとんど集中できませんでした。数学とか解らなくても次に進んで…というのが、ちょっとずつ増えてきて、最後の方は20番位になっていました。もう、親はピリピリしていましたね(笑)。

——東大は現役で入学したのですか?

浪人しました。現役の時は東大の文II(経済学部)を受けましたがダメで、後期は神戸大を滑り止めのつもりで受けたのですが、神戸大もダメでした。忘れもしないですが、神戸大の数学は1問も解らなかつたです。文系だったのですけどね。

浪人の時は東大の文I(法学部)を受けました。浪人中に気合いを入れて勉強したら、成績がうなぎ登りになって(笑)。最初は東大ならどの学部でもいいと思っていたのですが、模試でも良い成績果になってきたので文Iにしました。

——お母さんは「京大!」と言ってたんですね。  
僕も高3の途中まではアメフトも強いのです。ずっと京大を目指していました。京大ギャングスターズのクラブハウスに行ったりしていたので、現役の時に勧誘の電話も掛かってきていたのですが、「ちょっと志望校変えたんで!」と言ったら、「諦めんのは早いぞ!」と言われので、「東大に変えたんです」と説明したら納得してくれました(笑)。

その当時、国連の職員になりたいなとか思っていて、東大だと国際関係がしっかりしているというのと、東大は社会が2科目で数学のウェイトが割と低いのです。その頃、数学が割と苦手なで、社会系がすごく得意だったので、自分では東大の方が京大より入り易いかなと思ったりしていました。

## 高 端 歯 科

〒657-0065 神戸市灘区宮山町3-3-29 六甲ヒルコート102号

高端泰伸(33期)

TEL(078)871-6545

## 井 尻 整 形 外 科

JR 垂水駅北、レバンテ垂水1番館2階

院長 井尻慎一郎(32期)

TEL(078)704-5055, FAX(078)704-5066, URL. <http://ijiri.jp>

もう一つ、当時は内田有紀（女優）が大好きで、「東京に行ったら内田有紀に会えるかも」と半分冗談、半分本気でいつも言っていました（笑）。

——その内田有紀には会えましたか？

いえ、会えなかったです。逆に関西にいた時の方が、友達と一緒に握手会に行ったりして会ってました（笑）。

——中1の指導員もされたとの情報があるのですが、指導員をされた感想は？

56期の指導員をしたのですが、声を掛けて貰ったことはすごく名誉なことなので嬉しかったですね。中1はね…大変は大変でした。良い指導員だったかどうかはわかりません…。

彼らが中1の時、指導員の先輩も色々な個性の方がおられました、それぞれに格好良さがありました。なので、中1の見本にはなろうとはしていました。

——六甲のアメフト部での戦績や思い出を教えてください？

公式戦には高1から出られるようになりました。彼らの学年は20人くらいでしたが、一つ下の53期は2人しかなくて、その下は野球部のエースが入ってくれたりしました。僕はクォーターバックをやっていましたが、人数の関係で攻守の両面をやっていたので、ディフェンスエンドもやりました。

最初の練習試合で大阪の高校に圧勝したんです。彼らは1年生ばかりですが、相手は高2や高3もいる普通のチームなので、「あれ？意外と行けるかな？」という感じでした。最後の大会（高3になる春の大会）に全てを賭けていたのですが、当時は兵庫県下8校中の2位に入るとその上の関西大会に進出できるのですが、最終戦の宝塚東との2位決定戦でタッチダウン1本差位で負けちゃいました。関西大会に

は出られなかったですが、兵庫県では3位（1位は関学）で終わりました。

——兵庫県3位だったら、高校のアメフト人生としては満足ですよ。

いや、絶対に関西大会には行きたかったので、悔しい思いの方が強かったです。周りにも「六甲が行くんちゃうか…」と思われていたのですね…。一つの目標だったのが、関西大会とに進出すると、朝礼で表彰されるので、あれを絶対されたいと思っていて、それでまた部員も増えるかなとか思っていたので、本当に悔しかったです。しばらく「過去に戻れるとしたらいつ？」という質問には、「高校の最終戦の時！」と言っていました。

——卒業前に阪神大震災（1995年1月17日）が起こったのですよね。卒業式は出来ましたか？

出来なかったです。だいぶ後にやりましたが、いつだったかはあまり覚えていないですが、学校の講堂でやりました。メディアが入っていたのは何となく覚えています。まだ電車は復旧していなかったの、すごく遠回りして行った記憶があります。その中でもほとんど全員集まったと思います。

——受験は震災直後ですよ。

センター試験の直後が震災で、不謹慎ですが、数学が余り出来なかったの、解答用紙が燃えないかな…とっていました（笑）。2次試験に向けての勉強も、集中はし難かったですね。僕が住んでいた地域は、電気とガスは比較的早く来たのですが、水道がずっと来なかったの、給水車に並ぶというのが日課でした。放送を聞きつけて色々な所にいく毎日でした。

——東大でもアメフト部のキャプテンになったそうですね。

はい。キャプテンになったのは4回生の時で、レギュラーになったのは3回生の時からです。2年からちょこつ

と交代で出たりしていました。全体で100名くらいいます。

アメフト部の経験者は、僕の学年では僕とあと2人だけでした。毎年経験者は2~3人で、高校時代は文化部だった人も入ってきますね。アメフトは大学から始めるスポーツの感があります。オールマイティーじゃなくても、何かに秀でていたらあるポジションは出来るスポーツという面もありますね。

——東大アメフト部ではどういう戦績でした？

彼らの前後は東大アメフト部全盛期で、1部の中位から上位に入っていました。僕が1年の時の4年生がプレーオフに初めて進出しました。（2ブロックあり、ブロック中2位迄がプレーオフ進出）テレビ特集をされたりしていました。

彼らの時は、彼らのブロックの1位は日大に決まっていた、最終戦の帝京と東大の勝者がプレーオフに行けると、まるで高校時代と同じ状況で負けました！スポーツではそこが限界なのかな…とと思いましたね…。

その試合は、結構トリッキーなプレーをしたんです。余りにもトリッキーなプレーの場合は、やる前に審判に耳打ちするんです。選手が色々動いたりすると、審判もちゃんとライン上に人がいるかとかが解らなくなることもあるので、事前に耳打ちするのです。そのスペシャルプレーがハマってタッチダウンを取ったのですが、反則を出されてタッチダウンを取り消されたんです。でも反則じゃなかったんですよ。そういうのがあったりして、結果1本差くらいで負けたので、ちょっと納得行かない負けでした。

——その試合の後は泣きましたか？

泣きましたねえ〜。高校の時も泣き

## 株式会社 ハヤシホレイ

〒661-0021 尼崎市名神町2丁目10-15

代表取締役 林 敬一 (31期)

TEL (06) 6429-7661

有限会社  
アークスコーベ  
一級建築士事務所

32期

石丸 信明

〒530-0041 大阪市北区天神橋2-2-23 アークスビル

Tel 06-6136-1070 Fax 06-6136-1071

ishimaru@arkkobe.com http://www.arkkobe.com

ました。

——東大で、アメフトをしながら勉強もしたんですね。

それが全然しなかったです。正直、本当にしなかったです。

東大アメフト部というのは、5年制なんですよ（笑）。何故かという、1年生はほとんど経験者じゃない子が入ってくるので、上の学年と一緒に練習すると全くレベルが違うので、1年生は5年生が見るとというのがルールとか、当然の流れが出来ているんです。今は変わっているかも知れませんが、当時はそれが当たり前で、僕らも4年になる時は、就活したのは2人だけでした。その2人も「申し訳ないけど就活させてくれ！」という感じでした。最初から5年行くつもりだったので、テストも受けに行かなかったです（笑）。東大に入って最初の3カ月くらいは、高校の時の余韻で凄く勉強して、最初の成績だけは良かったですね。そこから、ほぼ一切、授業には行ってないです。2、3、4年は1回も授業に出たことがないです。授業に出なくても何とかするのが東大の良い所でして。1、2年はクラス分けがあって、各クラスに試験対策委員（通称：しけたい）というのがいて、その人が中心になって色々な人のノートを集めて、出来上がったノートをみんながコピーさせて貰うというシステムがあるんです。2年まではそれで何とか上がったのですが、3、4年は本当に1回も行かなかったの、引退後初めて試験を受けに行った時に法学部の教室の場所が解らなくて…（笑）。最初に校舎の案内を見て、どこやろう…って（笑）。

そもそもアメフトの練習はお昼くらいから始まるので、授業に出られない前提の練習スケジュールになっていました。練習時間はすごく多かったです。

筋トレやミーティングや、トータルで言えば14時位から始まって21時位までありましたね。なのでバイトはほとんどしてないですね。

——東大法学部卒というより、東大アメフト部卒ですね。

本当にそうです（笑）全てをアメフトに捧げていました！

——そんな西川さんが就職した所はどこですか？

日本政策投資銀行（旧日本開発銀行）です。国の施策に則った案件に、安く長期の融資をする銀行です。

元々の開発銀行の流れで言うと、民間が出にくい、工場などの長期（30年とか）にわたる資金回収が必要な融資をするのが多く、設備系で、当時だとクリーンエネルギーの風力発電とかをやっていました。

1年目の半年位は融資部門の契約書を作ったりとかをしていましたが、その後に財務部に異動になりました。それまでは政府からお金を借りて融資するという形でしたが、自分たちで市場から調達しなさいということになって、財投機関債という債権を発行して市場で資金調達をする流れになったのですが、それに関する仕事や、財務リスク管理のような部署にいました。そこで3年目までいて、財務省に出向しました。財務省には2年間いました。大臣官房総合政策課という部署だったのですが、マクロ経済の分析をしていました。色々な経済資料とか、財務省だけじゃなく、国交省や経産省が出した指標を財務省なりに分析して、GDPとかも内閣府が出すんですけど、その前に財務省として試算したりとかをする部署でした。

——そんな難しそうな仕事での対応ができるのは流石ですね。相当勉強したんですね？



ツエーゲン金沢のクラブハウス

まあ…なんちゃってなんで！出向者が多い部署で（7人位）、余り大したことはやってないですよ、本当に。ただ、財務部に異動になった時はデリバティブとかがあったので、数学が出来ないと…というので、しばらく苦手で遠ざかっていたのですが、その時は結構勉強しました。そういうのがあったから、財務省にも入りやすかったのだと思います。

——財務省への出向の後はどうになりましたか？

日本政策投資銀行に戻って、金沢にある北陸支店に配属になりました。

——ここで金沢と繋がったのですね。確か奥さんが石川県出身の方ですか。馴れ初めなどを教えてください。

妻は東大アメフト部のトレーナーで、大学1年の時から付き合っていました。一応（どうでも良い話ですが）部内恋愛禁止というルールがあったので、ずっと隠して付き合っていたのですが、なんとなく薄々バレている感じでした。4年生になる前に、みんなが本音でぶつかり合わないというチームが纏まらないということで、毎年恒例の徹夜で本音をぶつけ合う会があるのですが、その時に「そこ」を指摘されて…。「ちゃんと練習はやるから！」と初めて認めました（笑）。

5年生の時に、就職の内定を貰ってすぐに妻の実家（石川県小松市）に挨拶に行って、社会人1年目に結婚しま

## 森一産業株式会社

〒550-0012 大阪市西区立売堀5-4-40  
代表取締役 渡辺喜弘 (44期)

TEL (06) 6541-2271, FAX (06) 6541-2302

## 神戸駅前法律事務所

〒650-0027 神戸市中央区中町通2丁目2番17号 武田ビル5階  
弁護士 佐藤功行 (41期)

TEL (078) 381-7612, FAX (078) 381-7591  
E-mail: yoshixbb@gmail.com

# 2020 年度 六甲伯友会総会・懇親会 のお知らせ

開催日：2020年4月25日（土）

総会：15：00～

懇親会：16：30～

場 所：神戸ポートピアホテル

現在 52 期生は実行委員会を組織し、同期の輪を拡げ、  
総会・懇親会に向け準備を進めております。

詳細に関しましては、伯友会ホームページ・来年の「伯友」  
春号等にてお知らせ致します。

みなさま、2020年の4月25日には、同期のご友人をお誘い  
の上、ぜひご参加ください！

52期実行委員会 一同

## 「平成塾」開催のお知らせ

2020 年度六甲伯友会総会・懇親会に先立ち、同日同ホテルにて  
13時半より「平成塾」を開催いたします。

## 関西

幹事長：大井雄紀（おおい たかのり）

2020年伯友会総会・懇親会幹事長の大役を承りました52期の大井雄紀と申します。50期の先輩方が「六甲大祭」を開催され、51期の先輩方が200名を越える大盛況な懇親会を開催されたことを目の当たりにして、我々52期に一体何が出来るのであろうかと考えた時に、伯友会幹事学年というのは、高校を卒業し、社会人としてそれなりに活躍している中間管理職世代である我々が、現時点で一度六甲中学高校を振り返る良い機会と考えました。微力ではありますが、52期の素晴らしいスタッフと共に52期らしく幹事学年を全う出来たらと思っておりますのでどうぞよろしくお願い致します。

副幹事長：関本 剛（せきもと こう）

六甲を卒業して以降、大学でも職場でも、様々な場面で六甲の繋がりを実感し、六甲の繋がりに助けられ、勇気をもってきました。副幹事長という大役に私に務まるのか、いささか不慣れではありますが、六甲への感謝の気持ちを行動で示す機会をいただき、総会・懇親会の準備を通じて同窓生の繋がりをより強固にできることに喜びを感じております。懇親会では多くの52期に集まってもらい、楽しくリラックスした雰囲気の中、先輩や後輩に52期のことを知っていただくと同時に、新たな六甲の繋がりが広がる場となります様、微力ながら最善を尽くしたいと思っております。多くの同窓生の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

副幹事長：松本伸行（まつもと のぶゆき）

伯友会総会・懇親会に関わるようになったのは2年前、50期の先輩方が圧倒的な活力と運営力で作り上げた六甲大祭でした。この大きな祭りのあとの難しさを、今度は51期の先輩方が見事に調整されました。この対極とも言える2年間の運営をそばで見て、私なりに感じたものを、今後は自分たち52期の代に活かしていけたらと思っています。私自身も40代になり、改めて人脈の大切さを感じる日々です。過去の時間を共有した仲間はもちろん、社会の荒波の中で、同窓という存在は大変心強いものがあります。是非、この総会・懇親会をきっかけにさせていただければ幸いです。しっかり準備を進めてまいります。よろしくお願い致します。

会 計：牛戸陽治

幹 事：井原学、上原琢嗣、木村洋章、倉内太、近藤貴志、長谷川寛、平井俊彦

## 関東

幹事長：水原浩志（みずはら ひろし）

1995年の阪神淡路大震災の直後に卒業した52期が、東京五輪の年である2020年に幹事期を迎えることになり、大役に身が引き締まる思いです。大学卒業までは六甲と縁遠い生活を送っていましたが、1999年に就職で上京し、職場で六甲の先輩に偶然再会して以来、多くの先輩・後輩と六甲を通じた不思議なご縁を頂いております（今年は東京研修を職場に受け入れました）。また、52期としても東京での1999年以降の定期的な集まりを継続しており、その結束力は伯友会幹事期としてもお役に立てるものと思っております。「52期自身が、まずは楽しむこと」をモットーにし、関西も東京も盛り上げていきたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。

副幹事長：来田武則（きた たけのり）

卒業以来、六甲とは離れた生活をしてきましたが、仕事でのひよんな繋がりから、この数年ほど六甲生の東京研修の企業訪問の受け入れをしています。東京研修では、恩師である鍵山先生にオフィスに来て頂いたり、高校生と一緒に瞑目をして懐かしい緊張感を感じたりと、滅多にない経験をさせて頂きました。また、今年の関東伯友会の場では、仕事でお付き合いのあった方が六甲出身と分かって更に打ち解けたということがありました。幹事期に向けて52期の集まりが増えたこともありますが、最近になって不思議なくらい六甲との繋がりが深まってきたように感じています。懇親会が皆様にとってよき会となり、更なる縁を紡ぐ場となりますよう、幹事として精一杯準備をさせて頂きたいと思っております。

副幹事長：佐野慎介（さの しんすけ）

就職の為、2000年に東京に来ました。大学時代は神戸大学に通っており、六甲52期の同窓生との繋がりや、六甲学院に通う後輩達の存在を身近に感じて心穏やかに過ごしておりました。東京に来て一転、会社中心の生活に忙殺され日々自身の状況に悩む中、それを支えてくれたのは東京在住の52期の同窓生でした。その時助けられた思いもあり、東京で15年に渡り52期東京メンバーでの忘年会の幹事を務めてきています。昨年からは東京研修等の伯友会への関わりによって先輩や後輩との新しい繋がり、そして52期の更なる結束が生まれております。伯友会の存在に改めて感謝している次第です。そして今回、幹事として関われる事、大変嬉しく思っております。何卒宜しくお願いいたします。

幹 事：宇佐美敬、打浪克彦、久保拓毅、小林 昇、高島然次郎、三宅剛史

2020年度  
「平成塾」開催  
のご案内

酒井俊弘 補佐司教

個人的な話で恐縮ですが、私は六甲在学中の高3の6月にカトリックの洗礼を受けました。その時一緒に洗礼を受けた同級生の殆どが、その年の内に一般社会で成人式に当たる堅信式に臨みました。洗礼と堅信どちらも神から与えられる大切な秘跡です。私は書いて字の如く、信仰が堅ってから堅信を受けようと思い、その年に受けなかったのが、その後四十五年が経ってしまいました。

そんな折、六甲時代に芦屋教会の学生会と一緒に、最近では俳句でも交友のある酒井神父が補佐司教になった事で、補佐司教ご本人から「私が授けますので、是非堅信を受けて下さい」のお言葉があり、堅信式に臨む事になりました。しかし、堅信を受けるとはそんなに簡単で事ではなく、計12回の講習を受けねばなりません。私が受け始めた時は既に五回が終了していましたが、その分を酒井司教が個人レッスンで補講して頂いたので、無事堅信を受ける事が出来ました。お陰で私は高校生の時以来、日曜日には教会へ行くという習慣が蘇りました。教会へ行くようになって教会には先輩・同期・後輩を問わず多くの六甲OBが居て、その多くが聖歌隊や月報の編集そしてバザーのお手伝いなど幅広い活動をされている事を知りました。その一方で、私のように洗礼を受けた人の中にも、以前は来ていたのに暫く教会に足を運んでいない人も多い事が分かりました。また、教会で活躍されている方で私を知らない人も多くいます。という事は、六甲OBであって、教会へは行っているのに伯友会の行事には参加していないという事です。

酒井補佐司教は立派な方です。この「伯友」誌の『会員探訪』にインタビュー記事が載っています。これを読んだ上で、来年の「平成塾」に参加して、生の酒井補佐司教に接して頂きたいと思っております。

「平成塾」は酒井司教の講演と質疑応答で構成されます。酒井司教に是非尋ねてみたい事柄がある方は、予め伯友会事務局へお送りください。酒井司教にお伝えし、答えをご用意して頂きます。

(32期 近藤 健記)

した。日本政策投資銀行では、財務省への出向を終わって戻るとご褒美人事で、わりと希望を聞いてくれやすいという噂があって、希望の中に妻の実家がある石川県の北陸支店を入れました。ただ、その希望を出したのがだいぶ前だったのですっかり忘れていました。メールで人事発令が来たのですが、「北陸支店」と書いてあったのを見て「え？北陸支店？なんで？」と思いました。出したことも忘れていたし、絶対に東京に残ると思っていたので、家に帰って妻に「どうしよう？」って話をしました。二人で話している内に「そう言えば二人で話し合って希望出したな…」と思い出しました。

———奥さんは電通に就職されたそうですね。奥さんも東大は5年コースですか？

はい。ウチはマネージャー、トレーナーも含めてほぼ全員が5年コースです。

———二人で相談した金沢行きだから、奥さんも一緒に行かれたのですか？

最初は僕が単身で行きました(笑)。その後、妻が「辞めて付いていく」と言い出して、会社に辞意を伝えたところ、「それはもったいない」と慰留されました。金沢には電通の支社はなく、電通西日本という子会社の支社があるだけなので、本来はない出向ルートその時の上司が作ってくださって、それで2年間出向させてもらって、金沢で一緒に暮らせるようになりました。

———北陸支店は何年おられたのですか？

2年間です。入社してしばらくした頃から、何となく思っていたのと違うなというのを感じていたのですが、銀行といえば融資が本業なので、それをやってからなにか考えよう…と思っていました。

北陸に来て、実際に幾つか融資を担当しました。銀行業務の中には魅力のある部分もあるのですが、そうじゃな

い部分もたくさんあります。詳しくは言えませんが。

また、その頃ちょうど小泉改革で、「民営化になるからもっと投資して儲けよう」とか、これまでとは全然スタンスが変わったなと思ったら、「いや民営化はなくなるんじゃないか」という意見も出てきました。組織として自己完結できるなら良いのですが、外野の声で動かされているというのも「違うな…」と思った一つでした。

———退職する時は、プレミアムエデュケーション設立を計画されていたのですか？

いえ。辞めて、じゃあ何をしようと考えた時に、これまでの融資や財務省の経験を含めて考えて、銀行はハードに融資するのですが、ハードだけじゃなく、ソフトや人の部分がすごく大事だなと思い、これまで色んな人と出会った中で、人の育成に携われたら良いなと思って立ち上げました。

辞めてから1年位は充電期間じゃないですが、ふらっとしていて、妻も出向が終わって東京に戻る事になったので、一緒に東京に戻り、プレミアムエデュケーションを作りました。

金沢ではコネクションが出来ていたので、まずはイベント的に中高生のリーダー教育みたいなのを始めました。次はどうしようということになった頃に、たまたま妻の元上司が会社を辞めておられて、人材育成をやりたいという事で意気投合して、二人で社団法人 NS 人材創造機構を立ち上げました。その後、理想はありながらも「稼がない」ということで、色んな大学に営業をしました。今、お金が出るのは就職支援だろうというところで、大学に「いろんなアドバイスが出来ますよ」と営業回りをしました。義理の父が理事をしていた北陸大学を紹介して

もらい、上手く国から就職支援の補助金が取れたので、北陸大学で就職支援やキャリア教育をしました。

その頃、東京と金沢を半々位で活動していたのですが、東京では大学の前でピラを配って生徒を集めて、就職塾をやっていました。その中で、たまたまサッカーJリーグのツエーゲン金沢の話があったのです。

———どうツエーゲンと繋がるのですか？

一緒に社団法人を立ち上げた元電通の方は、新聞担当を長くされていた方で、地方紙担当の経験もあり、北國新聞のツエーゲン担当だった役員とか営業部長とのと繋がりが深い方でした。ツエーゲンがJFLだった当時、「誰か、専属で面倒を見てくれる良い人はいないかな」という話があると、その方と雑談をしている時に聞いて、「面白そうだな」と思いました。

Jリーグを目指しているタイミングだったので、Jリーグの理念を読んだりしたところ、自分のやりたいと思っていた街作りとか人作りがスポーツを通じて出来るのじゃないかなというので、半分手を上げた感じです。そこで今の社長と顔合わせを新聞社の会議室でして、「ぜひお願いします」と言っていただきました。

———ツエーゲンに入ってみてどうでした？

当時はJFLでしたし、大変でした(笑)。サッカーの現場のことは経験がないので、自分の役割は、クラブをマネジメントしてお金を集めることで、金銭的なところは自分の頑張り次第だと思っていました。

僕が入った時の、クラブの収入は約1億5千万円くらいでした。Jリーグに上がるには全然足りないの、お金集めとお客さん集めをどうするかという所と、当時はスタジアムがJリーグ

## 株式会社 村上工務店

〒652-0815 神戸市兵庫区三川口町2丁目4番8号

相談役 村上良隆 (21期)

代表取締役社長 村上豪英 (48期)

URL: [www.murakami-gc.co.jp](http://www.murakami-gc.co.jp) E-mail: [info@murakami-gc.co.jp](mailto:info@murakami-gc.co.jp)

## 六甲国際ゴルフ倶楽部

〒651-1263 神戸市北区山田町西下字押部道15番地

常務取締役 加藤 敏 (62期)

六甲国際ゴルフ倶楽部 TEL (078) 581-2315 六甲国際パブリックコース TEL (078) 583-0351  
URL: <http://rokkokokusai-kobe.jp/> E-mail: [s.kato@rokkokokusai-kobe.jp](mailto:s.kato@rokkokokusai-kobe.jp)

の基準を満たしていなかったもので、いくら勝ってもJリーグには昇格できない状況でした。

最初はJリーグを目指そうと地元もすごく盛り上がっていたようですが、僕が携わり始めた頃は、メディアは新聞社がころころと、テレビ局はどこも来ない状況でした。

———中学でやりたいと思っていたサッカーの世界に戻ってきたのは、全くの偶然ですね。

たまたまサッカーでしたが、サッカーは好きでしたから、サッカーだったのは大きかったですね。そしてJリーグを目指すという目標はしっかりしていましたね。サッカー部を辞めてからもサッカーはすごく好きで、昼休みは毎日サッカーをしていました。高3の時も雨が降っても昼休みはサッカーをしていた位で、サッカーだったのはポイントだったと思います。

———GM (ジェネラルマネージャー) というのは、現場から経営まで全てですよ。

僕の場合、前任者のこだわりでGMという肩書ですが、チーム編成のところはほとんどタッチしていません。編成は和田昌裕氏 (御影高校出身) がトップにいます。

———和田さんは神戸繋がりですか？それともたまたま？

たまたまといえばたまたまですが、編成を任せられる人材を探していた時に紹介されて、非常にタイミング良く声を掛けることができました。しかし、やはり「神戸」出身というのは僕の中ではすごく大きいし、なんとなく安心感もありました。

———ツエーゲン金沢のJ1昇格はいつごろになりそうですか？

予算規模がちょっとずつは増えて行っていますが、このペースで行ったら「百年構想」になってしまうペースなのでね…。お客さんも少しずつしか

増えて行かないので、なかなか厳しいです。チームは今、上手く若手を使いつつ、良いチームを作れて行きますので、後はクラブの体力を付けていかないと…というところです。

———六甲とは疎遠ですか？

そうですね…。アメフト部のOB会は年末にOB戦をやっているのですが、全然顔を出せていなくて…。なんとなくOB会長にはなっているのですが…初代キャプテンなんで…。最初は行っていましたが、最近は全然行けてないです。

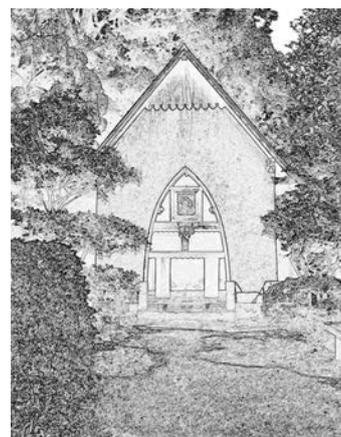
六甲ではいろんな経験をさせて貰いました。クラブ小委員会という、クラブの予算を管理するセクションがあって、学校から降りる予算を各クラブにどう配分するかを決めるのですが、僕はその委員長をさせて貰って、他の部の予算をカットしながら、いかにアメフト部に予算を流すかをやっていました (笑)。新入生募集の冊子とかも作るのですが、当時アメフト部は学校の組織としてはまだ同好会で、正式な部として承認されていなかったもので、通常なら同好会は列後の扱いになるにも関わらず、「あいうえお順に並べる！」と言ってアメフト部を一番最初に掲載したところ、先生に「同好会が最初ってなんやねん！」と怒られました (笑)。持っている権力は存分に使うという、一直線な生徒でした。

六甲でイチから何かを作るという経験が出来たので、このツエーゲンの話があった時も、正にこれから始まるというのがありました。仮にヴィッセルでこういう話があったとしても、行かなかったと思います。イチからこれから自分がやっていけるという所に魅力を感じた部分は大きかったと思います。

今、金沢駅の近くでアイリッシュパブをやるかと計画しています。なかなかスポーツに触れる機会がないので、お客さんをスタジアムに呼ぶ時に、まずは飲み屋でなんとなく「ツエーゲン、やってるな」という状況を作って、徐々に興味を持って貰えたらと考えていたら、上手く出会いがあり、9月14日オープンです。(取材は9月4日)

また金沢に来られた際は、ツエーゲン金沢とアイリッシュパブをよろしくお願いします！

昨年、仕事でツエーゲン金沢の試合会場でお会いした時から、ぜひゆっくりお話を聞きたいと思っていたので、今回金沢まで取材に行ってきました。試合後に率先して後片付けをしている姿は、まさに六甲生らしいリーダーだと思いました。取材は終始笑いが絶えず、本当に楽しかったです。異色の経歴ですが、全てが繋がっている気がします。因みに金沢弁で「つえーげん」とは「強いんだ！」という意味だそうです。タクシーの運転手が「最近『つえーげん』だけど、数年前は『よえーげん』って呼んでた」と言ってました (笑)。



## 掲載広告募集中

**iCRAFT**

アイクラフト株式会社

地域に喜ばれるITを届けよう

〒650-0034  
神戸市中央区京町83番地  
三宮センチュリービル13F

代表取締役

**山本裕計 (43期)**

TEL (078) 391-2900, FAX (078) 391-2901, URL : <https://www.icraft.jp>

## 同期会だより

各期の同期会の報告をお待ちしております。その際、なるべく楽しい写真を添えていただければ幸いです。開催日及び場所を記載していただく以外は、特に字数制限はありません。また「伯友」は春と秋号2回発行しておりますが、「同期会だより」は秋号のみ掲載しますが、場合によっては開催日と掲載が1年以上隔たる場合も生じますが、ご了承ください。

「伯友」誌には、学年・開催日・場所・参加者・写真のみの掲載となります。ホームページの伯友会オフィシャルサイトには寄せられた報告の全文を随時掲載いたしております。

### 8期

開催日 2018年11月7日(水) 12時30分～14時30分  
 場 所 ミント神戸8階 ラ・カスエラ  
 参加者 大西憲治、奥 昭徳、小倉 裕、尾上芳郎、豊田昇、中村雄一、長森 健、馬場信次 計8名



### 13期

開催日 東京 2019年4月19日(金)  
 神戸 2019年6月10日(月)  
 場 所 東京 「霞が関シーボニアメズクラブ」  
 場 所 神戸 「西村屋和味旬彩」  
 参加者 東京 14名  
 神戸 25名



東京同期会



神戸同期会

### 17期

開催日 2018年11月28日(水)  
 場 所 花隈・鈴江  
 参加者 (着席左前から) 村上功、平林、反橋、岩間、松井、徳大寺、瀬尾、岡田  
 (左から立姿) 森建三、鈴木一生、岩津、管、高田、井上將、森功、小川、小谷(旧姓)、岸、南谷、福田 (19名)



### 22期

開催日 2018年9月24日  
 場 所 神戸ベイシェラトンホテル  
 参加者 秋山直英、伊藤真人、五百住敬、大寺豊、太田和彦、小西順、榊山良一、猿谷正浩、鈴木伸典、砂川良和、高田明、多田光男、谷岡研、辻禮治、戸田豊、西崎雪夫、野口恵司、濱田敏夫、松原秀夫、三島秀樹、森川嘉郎 (21名)



特許業務法人 **有古特許事務所**



〒650-0031 神戸市中央区東町123番地の1 貿易ビル3階  
 会長・弁理士 **角田嘉宏 (13期)**

TEL(078)321-8822 FAX(078)392-3982 URL: <http://www.arco.chuo.kobe.jp>

かわいいお孫さんに会いたいですか? ご両親からのご相談も多いです。

子宝相談

漢方相談

ガン相談



**サツマ薬局**

取締役会長 野口 恵司(22期)

〒650-0012 神戸市中央区北長狭通7-3-10 アベイル21ビル1F

TEL:078-341-2283 FAX:078-341-2276

URL: <http://www.320320.net/> E-mail: [k.noguchi@320320.net](mailto:k.noguchi@320320.net)

26 期

開催日 2019年4月20日(土)  
 場 所 神戸ポートピアホテル  
 参加者 饗庭光夫、黒井良治、徳永敬治、居内健二、山下泰三、戸田裕史、兔原卓、駒井正俊、豊田政一、江川直樹、小松武久、中井芳紀、衛藤照夫、櫻井潔、中島敏夫、大上敏夫、桜井直樹、中村奉修、大竹博、三幣豊、西田和範、大津修、芝山豊章、橋本吉博、大東謙、柴田徹、浜田謙三郎、億川潔、白井栄一、濱本雄二、奥平隆、進藤彰久、樋口博史、小根田一郎、須賀川誠、姫田和明、貝野猛、高山義博、藤川俊一、亘(柏木)伸夫(令夫人)、竹田至、藤田直己、多次貞二、松浦明生、門岡清重、立間康裕、三木勝、神戸壽、辰巳貞一、元川士郎、岸田孝昭、田中秀一、山下治、北田裕司、田中秀明、山田昇、北村明良、谷岡真、狐塚善樹、津田佳邦

今山、宇都宮、内田、圓道、尾松、太田、大西、賀来、垣内、鍵山、河谷、北山、近藤、佐々木、佐野、酒井(弘)、阪本、桜井、澤田、志賀、芝、白井、田中(一)、田中(潤)、龍野、谷口、佃、土屋、鶴丸、東地、中園、中根、中林、西村(宏)、野村(史)、野村(護)、広瀬(浩)、広瀬(寿)、古澤、堀江、松井、松本(聡)、松本(卓)、溝口、村上、森岡、森本、八木、安田、山田、山本、脇田、渡辺(利)



東西対抗ゴルフコンペ

28 期

開催日 2019年5月14日(火)～18日(土)  
 場 所 宮古島、沖縄島  
 参加者 6名



入学50周年記念同窓会



34 期

開催日 2018年10月27日(土)  
 場 所 新大阪ワシントンプラザ  
 参加者 浅田、伊井、石川、井関、乾、上田博之、江見、大加戸、落合、加藤博、金田、鴨志田、北川、野村(口野)、小林正彦、斎藤、佐々木、城江、末宗、田尻、高田明、武内、武本、鶴田、徳尾野、中村俊一、西、西口、野田、吉村(萩原)、長谷部、畑辺、濱野、福長、藤岡、松浦、宮本、村上、安田、山岡、山本隆夫、吉岡英二、和田、林(和田豊)+飯塚先生、桒藤先生

2次会のみ参加：西村達衛

翌日ゴルフ参加：江見、斎藤、鶴田、野田、吉村(萩原)、原田英一、藤岡、松浦、山本慎一

32 期

開催日 東西対抗ゴルフコンペ 2019年9月22日(日)  
 六甲入学50周年記念同窓会 同 9月23日(月)  
 場 所 コンペ：明石ゴルフクラブ  
 同窓会：神戸ポートピアホテル  
 参加者 コンペ：20名  
 同窓会：60名+先生3名  
 阿部、秋山、井上(肇)、池上、石井、石平、今井、



やまだ整形外科クリニック

〒651-0065 神戸市中央区割塚通7丁目2-1コンフォート春日野2階

院長 山田 博 (32期)

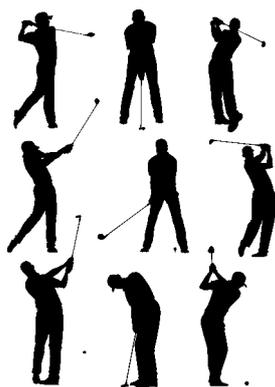
TEL(078)262-6780, FAX(078)262-6786

ポートピアホテル

〒650-0046 神戸市中央区港島中町6-10-1

代表取締役社長 中内 仁 (42期)

TEL(078)302-1111, URL. <https://www.portopia.co.jp/>



## クラブOB会だより

### 体操部OB会報告

開催日 2018年9月1日(土)17:30~19:30

場所 「天安閣」(中華料理)

参加者 池長潤(12)、角田嘉宏(13)、影山正憲(15)、千葉和成(16)、斎藤節雄(17)、高橋庸一郎(18)、木村勝彦(23)、中村奉修(26)、濱田謙三郎(26)、濱田誠剛(27)、姫野靖彦(28)、山本芳邦(28)、浅香晃一(29)(敬称略)

第6回体操部OB会を、JR神戸駅前の「天安閣」で開催しました。紹興酒の甕(かめ)開きに始まり、中華料理を味わいながら歓談し、大いに盛り上がりました。

池長氏(当時キャプテン)からは、当時は六甲体操部の全盛期であって、神戸市の大会でも県の大会でも優勝していた話を伺いました。当時の顧問、体育の増田先生(まっさん)からは「蹴上がり」しか教えてもらえなかったのが、角田氏が原田中学や神戸高校に出向いて技を教わってもらって六甲体操部の技術向上を進められたとのこと。全盛期を支えた工夫と努力に敬服する話でした。ちなみに、角田氏はその当時に習得された「技術導入」の技を発揮して先駆的な海外特許の分野を切り拓かれたとのこと。影山氏は中学一年の時は小さくて体育祭のピラミッドの頂点に上がったが、六甲の坂道で脚が鍛えられバネが強くなり床運動で優勝されたそうです。千葉氏によると、まっさんは怖い先生だったそうですが、体操部の顧問だとは知らずに先生のご自宅に伺い笑顔の先生を発見されたそうです。斎藤氏からは、体操部に入ると体育の点数が上げてもらえるという噂のせいで100人も入部したという笑話話が披露されました。音楽の本田先生による作曲・木村氏作詞の体操部の歌があるとの話が木村氏から出て驚き、一度聞いてみたい気持ちになりました。

濱田謙三郎氏はじめ毎回参加したいとの発言が相次ぎ、次の開催を誓い、無事に終了しました。

(第5回体操部OB会幹事:29期 浅香晃一 記)



株式会社 オオサワ

代表取締役 大澤裕信 (24期)



ポートアイランドゴルフ倶楽部

TEL(078)303-5337, FAX(078)303-5381



三輝工業株式会社

〒555-0043 大阪市西淀川区大野1丁目5-12

濱田誠剛 (27期)

本社・工場 TEL(06)6475-5156(代), FAX(06)6475-5406

WHAT'S UP AT

OBANO-YAMA

この欄では、母校六甲学院の近況を伯友会員にお知らせ致します。六甲生の現在の姿を垣間見る事が出来るかと思えます。

## 生徒へのインタビュー



勝村亮太 (かつむらりょうた)  
77期、高3 A  
中1 指導員  
音楽部 (フルート担当)



佐野康大 (さのこうだい)  
77期、高3 B  
中1 指導員  
サッカー部 (ゴールキーパー)  
ISLF 参加

中学入試広報担当四宮豊教諭のもと学校広報活動にも参加したとお聞きしたのですが、それは自発的なものですか？

佐野：高2の2学期の学校説明会に際して、高2の時に中1の指導員をやっていた人達でやってくれと依頼されました。四宮先生から「やってくれへんか」と言われました。自分からやりたいと申し出たわけじゃないです。

勝村：指導員は4人いるのですが、バザーの説明会と10月の学校説明会2回の計3回をその4人でやりました。今年高3時の6月の塾の見学会に、また僕と佐野が出ました。

ちょっと手伝ってという感じですか？

勝村：そんな感じです。ガチガチに先頭に立って…というような感じではなかったです。

お二人が「くま先輩」に扮したのですか？

勝村：「くま先輩\*」は四宮先生の上司にあたるそうです。僕たちは「くま先輩」と一緒にいる…みたいな感じです。操ってるワケではありません。

\*六甲学院オリジナルのキャラクター。六甲の制服を着た熊のぬいぐるみで、ツイッター上で「くま先輩の日記」を発信しています。実在の人物ではありません。詳しくは六甲学院のホームページをご覧ください。



中学入試の広報担当って何をするのですか？

佐野：学校説明会で、僕ら生徒の目線から受験生の保護者の方や小学生に学校を紹介しました。

「生徒の目線から」学校の紹介とはどのようなことをしたのですか？

勝村：10月の学校説明会の時に僕と佐野が2人でPowerPointを使って写真を見せながら紹介を行いました。僕らは指導員として中1の様子を近くで見ていたので、入学後中1がどのような1学期を過ごしていくのかを、紹介して、その後、中3、高1での行事、例えば立山や沖縄での話や、佐野も僕もクラブをやっていたので、クラブの話をして、最後に受験生にメッセージを送るという感じです。その他の行事や便番の話もしました。

六甲の一番アピールしたいポイントは何ですか？

佐野：1学期に中1を見ていた指導員としてしゃべらせてもらったので、先輩と後輩の繋がり、自分が教えている中1が5年後にまた誰かに教えて…という先輩と後輩のサイクルがあるのが、この学校の独特で凄い点だと思うし、その中で自分も先輩から成長させて貰いました。自分が先輩になった時に後輩に還元出来るというシステムがあるのが良い所だと思います、ということをお小生と保護者の方に伝えました。

反応はどうでした？

勝村：その後の、クラブ見学の時に直接保護者の方達と話す機会があって、「いい話だったよ」と言われて、良かったなと思いました。

勝村君がアピールしなかった部分はありますか？

勝村：佐野と同じようなことですが、六甲は中1と高2や高3が触れ合う機会があって、そういう関係があるのは六甲の良い所だし、他には高校生と中学生が関わる学校はあまりないと思います。僕自身、自分が中学の時に高校生の先輩から良い影響をいただいて、今でもよく相談させていただいている方もいるので、そういう関係があるのがうちの学校の良い所だよという話をさせていただきました。

指導員になってみてどうでした？

勝村：僕は楽しかったです。やっている間は、まだ小学生の雰囲気抜けられない子たち相手に、どうにか中学生にしてあげないとアカンというので大変で、例えば、敬語を使いなさいというのは厳しく何回も言いました。今から思うと、もっと楽しくやれば良かったかなと思います。責任の重さにやられそうになっていたところが多かったです。

指導員にはどのようにしてなるのですか？

佐野：(高1の)三学期に先生に呼ばれて「来年、指導員の候補に入っているんだけど、する？来週までに返事して」と言われました。想像した責任の重さから胃が荒れました(笑)。その週に英検があったのですが、英検どころじゃなかったです(笑)。

胃が荒れながらも、嫌ではなかったのですか？

佐野：自分も指導員の先輩に憧れていたこともあったので、

なれるのは光栄だなというのはあったんですけど、「ホンマに俺がやって良いのか？」というのがあったので、返事の期限を「もう1日待って下さい!」とお願いしました。でも、こういうチャンスはないし、これも何かの縁かな、良いチャンスかなと思ったので、頑張ってみようと思いました。

友達とか家族には相談しましたか？

佐野：先生から、候補に入っているということ自分を引き受けるというまでは、余り人に相談しないでと言われていました。もし自分が辞退した場合に、次の人は僕の代わりになったということになって、「あの指導員は代わりの指導員や」と言われちゃうので。親には相談しました。それと指導員候補になった他の3人には話をしましたが、他の友達には話さず、一人で決めました。

勝村：僕の場合は佐野ほど悩まなかったです（笑）。佐野が先に呼ばれたみたいで、すごくニヤニヤしていて…。「こいつ、言われたんやな!？」と思っていたら、自分も言われました。

機会があればやりたいと思っていたので。4人中、悩んでいたのが2人と積極的なのが2人で、僕は積極的な1人でした。金曜日に言われて、一応土日は考えて、月曜日に「やります」と返事しました。クラブの先生には「やって良いですか？」と相談しました。

あなた達が中1の時、指導員からどんな影響を受けたのですか？

佐野：自分が順調な六甲生活を送ることができているのは、中1の1学期に六甲というのはこういう所だと知る事が出来たのが一番大きいと思います。それは言葉と行動の両方で伝えてくれました。かけてくれた言葉も重みがあったし、指導員の先輩（高2）が文化祭や体育祭をやっている姿も格好良かったし、そういう所は「背中で語る」という部分もあったのかなと思います。

勝村：自分のクラスの指導員の先輩は、すごく優しい方で、いい人オーラがすごく出ている方でした。こういう先輩がいて、高2というのはこういう感じなんや、こういう先輩になりたいなと中1ながらに思ったのは覚えています。

もう1人クラブの先輩で指導員をやられていた先輩がい

て、その方とは卒業なさってからでも連絡を取っています。音楽部で演奏会に出てもらう関係もあるからですけど、毎年3月の定期演奏会の時に会っています。そんな時に色々話をします。相談に乗ってくださる事もあります。自分のクラスの指導員の先輩も、クラブの先輩も相談相手でもあり、憧れでもありました。

素敵な指導員だったのですね。何という方ですか？

勝村：僕ら二人は中1で同じクラスだったので、同じ指導員だったのですが、73期の松田さんという方です。

指導員になってみたいと思っていましたか？

勝村：ちょっと恥ずかしい話なんですけど、中3か高1くらいの時に先輩から「勝村、お前は指導員になるやろ」と言われていて、先生の中でもフレンドリーな先生はそういう事をおっしゃる方もいて、僕としてはむしろこれでお呼びがなかったら…という焦りが、実はありました（笑）。お話をいただいた時は安心したというか、ホッとしたというか、「来た!」という感じでした。

じゃあ、ちょっとは自信があったんですね？

勝村：全く無かったと言えば、4人ともウソになると思いません（笑）。どこかで多分…と思っていたと思います。

指導員に選ばれるということは、成績も素行もかなり良い方ですよね。

勝村：世間的に見たらそういうことになるのかなとは思いますが、そんな偉人なんてもんじゃないです（笑）。指導員を文章で書くと、すごく聖人君子みたいに思われますが…（笑）。

二人は文系・理系のどちらですか？

佐野：二人とも文系です。A組が文系だけのクラスで、B組が理系文系混合クラスです。

志望する大学や学部は決まっていますか？

佐野：受かってから言いたいです（笑）。狙っている学部は内緒で!

「くま先輩」についてどう思いますか？

勝村：あれが始まったのが去年で、多分四宮先生のアイデアです。基本的には四宮先生がクマを持って歩き回る感じですよ。

佐野：始まった時は斬新というか、画期的でした。今までの六甲だとツイッターなんか想像できなかったです。僕が最近「くま先輩」を見て思うのは、最初はクマ先輩を持っている人（四宮先生）の手が写っていたのですが、段々撮り方が上手くなって手が写らなくなったと感じることです。段々四宮先生も撮り方がわかってきたみたいです。まあ、学校広報とは直接関係ない部分ですが（笑）。ツイッターとかをやるような学校じゃなかったのが、時代に合ったことをやっているなと思います。

学校はスマホ禁止だから、家に帰って見るんですか？

勝村：四宮先生に撮られた後、家に帰って「どんな風に上げ



息もぴったりの二人

てるのかな」と思いながら見る感じです。

佐野：みんな「くま先輩」に写りがついていますね。中学生も高校生もですけど、全体的に「くま先輩」が来たら写りがついています。そういう学校のマスコットの人気キャラではあります。

なんで「くま先輩」なんですか？正体はティディベアですか？

佐野：なぜかは四宮先生に聞いて下さい（笑）。以前から学校のバザーで販売されていたみたいです。

「くま先輩」を通じて学校が変わってきた感じはありますか？

佐野：僕たちが学校説明会で話させてもらうのも去年が初めてだったので、なんとなくオープンになったなと思います。学校自体がパッと開いた気がします。

佐野君が参加した「ISLF」って何ですか？

佐野：イグナチアン・スチューデント・リーダーシップ・フォーラム“Ignatian Student Leadership Forum”の略です。去年の夏休みに東南アジアのイエズス会の学校の高校生達が東京に集まって5泊して、色々な国で共通して抱えている問題を考えようという会合でした。国内外合わせて100名以上の参加があって、六甲からは6名参加しました。

会話は英語ですか？

佐野：ずっと英語で…しんどかった（笑）。参加者の国籍は香港、マカオ、台湾、フィリピン、インドネシア、東ティモールだったと思います。その人達だけで80名くらいいました。引率の先生も同行されています。あとは日本のイエズス会の学校4校です。海外は女子もいました。東ティモールは2名とも女子でした。公用語が英語なのは、香港とフィリピンだったと思いますが、他の国の人は英語を母国語としている人達じゃないから僕たち6人は全員「なんとかなるやろ」と思っていました（笑）。でも英語がしゃべれないのは日本人だけでした。六甲の6人がダメなのじゃなくて、他の4校の日本人は、栄光学園の図抜けたすごい人を除いて、基本的に片言の、ちょっとしんどい英語でした。インドネシアの公用語は英語じゃないですけど、普通にしゃべってました。訛りがひどいと聞いていたのですが、別に気にならなかったです。ちょっと「日本人、英語頑張らなアカンな」と思いました。自分の英語に自信がないから、そもそも議論にあまり参加が出来ないというのが致命的でした。

聞き取りはできるんでしょ？

佐野：何を言っているかは解るんだけど、自分が思っていることを表現出来なかったです。すごくしんどい思いをしました。

どんな5日間でした？

佐野：『日本人がなんで英語がこんなに苦手なのか』を説明する英語が上手くなっていきました！（爆）「普段の勉強は書いたり聞いたりするばかりで、なかなかしゃべる機会がないんだよ」ということを説明する英語が段々上手くなったのですが、「それってどうよ」という感がありました。

そういう環境はないの？

佐野：日本の教育は四技能（「聞く“listening”」「読む“reading”」「話す“speaking”」「書く“writing”」）の中の「話す」能力を重視する方向へシフトしつつあるのかもしれませんが、六甲がどう変わったかといえば、現高3は、これまでとそう変わらないというか、基本的には「話す」という授業が余りないです。今の中学は、「話す」の授業もあるみたいで、変わってきています。

英語のネイティブスピーカーの先生はいるのですか？

佐野：おられます。中1と中2は、「話す」の授業が週1回あり、1クラスを3つに分けて3人のネイティブの先生が担当しています。中3と高1は週1回ネイティブの先生が「聞く」の授業を行います。

昔は外国人の神父さんがたくさんおられて、ドイツ人、スペイン人などの神父さんに英語を教わっていたので、六甲は英語に接する機会が多かったので、英語に強いという印象を自分達も、周りの人達も持っていました。今はどうですか？

勝村：ないですね（笑）。

佐野：ISLFみたいな機会は六甲じゃなくなかったから良かったかなとは思いますが、そもそも六甲生全体としては、受験英語は出来るけど、しゃべる英語が得意な子は幼稚園から英会話学校に行っていたからという感じで、六甲の教育で上手くなったという感じはしないですね。六甲の英語教育が悪いというより、これまでの日本の英語教育が悪いという気がします。

昔、六甲におられたフリン先生（故人、アメリカ人神父、バスケットボール部顧問）が作られた“Progress in English”は今でも使っていますか？

勝村：僕らは使っていたのですが、今年の中1からは使っていないです。今の中2が最後です。

ISLFの中で、英語以外で思い出に残っていることは？

佐野：一番痛感したのは英語ですが、言葉は上手く通じないけど、お互い言っていることが解るというか…、同じ年の子らが違う国から集まっていて、背景は色々違うんだろけど、日本の問題について考える時に「自分の国ではこういうことがあって困っているんだよ」と分かり合えるところがありました。それはすごく面白くて、興味深いことが知れたかなと思います。

「今、フィリピンではこんなとんでもない大統領がいて…」とか、インドネシアでは「社会的少数派の中国系の人達がこんな目にあっているんだよ」とか。そういう話もできたというのは、あのような機会だからかなと思います。

そういう話は会議の中で会話ですか？

佐野：遠足のような形で東京まで出掛けた電車の行き帰りの立ち話をする時もあったし、ディスカッションの場でもありました。

100名ほどが集まったのは、どういうところだったんですか？

佐野：上智大学の短大が神奈川県秦野というところであって、その宿泊施設や、大学の教室でした。その施設は、野

球部が合宿をしたりしているそうです。

グループ分けをしてのディスカッションはしましたか？

佐野：そうですね。1日目は大きなホールの中で国ごとにグループができていたのですが、徐々に混じっていきました。

混じっていったというのはどのようにですか？

佐野：みんなで話し合う時は意図的に色々な国の人が交わるようにしていましたが、元々 ISLF に来る人達は他の国の人としゃべろうという目的で来ているから、積極的に関わってきました。僕ら日本人は話しかけられるのを「待つ」状態でしたが、海外の生徒が向こうから話しに来てくれるような状況でした。海外の何人かと仲良くなりました。

この ISLF は選ばれて行ったのですか？この研修会はどれ位の頻度で行なっているのですか？

佐野：自分から行きたいと言いました。蒲原先生の話だと、何年かに1回やってるみたいな話をされていました。どうも不定期でやっているようです。

いつも日本で開催されているのですか？

佐野：確か2年前の75期生が参加した時は、インドネシアだったと思います。

6年間で思い出深い出来事とかはありますか？

勝村：一番記憶に新しいのでは文化祭、体育祭が大きかったと思います。文化祭（高2の9月）も体育祭（高3の6月）も割りと中心の方にいたのですが（委員長ではないが、主任会議に呼ばれるようなポジション）、文化祭は僕の中ではちょっと悔しくて…。失敗というか上手く行かなかったとか…。生徒のみんなは楽しんでくれたとは思いますが、運営面で学年が一つになるのがなかなか難しく、自分としては不完全燃焼で終わった感じでした。体育祭は佐野と一緒に企画パートをやりました。佐野が主任で僕が副主任で、総行進の図案を考えました。文化祭の会議では、運営の事務的な話に終始してしまっていて、後輩たちをどう持って行くかの話が出来なかったのが、ちょっと残念に思っていたので、それが体育祭ではある程度できて、自分からメッセージを伝えることも出来たし…。文化祭の経験を活かして、体育祭では完全燃焼できました。僕は、文化祭そして体育祭を運営す

ることで学年全体として成長したんじゃないかなと思っています。佐野はまた別の事を思っているかも知れませんが…（笑）。

佐野：体育祭も一番直前で、二人で楽しく出来たからすごく良い思い出だったなと思います。さっきの指導員の話と被る所はありますが、僕自身一番成長出来たなと感じたのは高1の時に前島（以前の久美浜キャンプに相当。中1のキャンプ地が牛窓の近くの前島に変更になった）のキャンプリージャーをしたことです。その時に1つ上の学年（高2）の岸田さん（76期）を見て、「この人すごいな」と思いました。中1から見る高2と、高1から見る高2はまた違うなと感じました。岸田さんは本当に良い人で、僕は「聖母」と呼んでいます（笑）

聖母・岸田様は何がどうすごいのですか？

佐野：基本的に聖母なので優しいのですが、中1には優しく接していますが、何かアカンなと思った時には、中1にだけでなく、同級生や1つ下の学年（僕たち）にも言わないといけないことを的確に言える、別のタイプの良さもあるところなんです。とにかく人柄が良くて、言っていることがもっともだなあと素直に納得できる感じの言い方のできる方です。岸田さんが高3の時の体育祭でも（僕が高2の時に）一緒にさせていただいて、すごく影響を受けました。到底自分にはなれないけど、どこかで「こんなふうになれたらな」と思う人です。充実した高校生活を送れているのは、岸田さんのお陰だと思っています。だから、中1には「まず良い先輩を見つけて、その先輩にとって自分が良い後輩になれるようにしたら、多分君たちも良い先輩になれるよ」と伝えました。

今でも登下校時の六甲の坂では帽子を取って「おはようございます！」と先輩に挨拶しているの？（帽子がないのか…）

勝村：ないです（笑）。

中1の時に、高2の指導員を見てオッサンやとは思わなかった？

勝村：思わなかったですね。好青年という印象でした。

六甲にそういう良い先輩や素敵な友達がいるのは何故だと思いませんか？

佐野：シンプルにそういう人達が続いているというか、僕が1つ上の先輩（76期岸田さん）や4つ上の指導員の先輩（73期松田さん）から色々教えてもらったものを、次に繋いでいくというサイクル…多少学校も時代の変化やニーズによって変わることもあるでしょうけど、六甲生としてあるべきというか、格好いい姿というはずっと前、僕らが知らない先輩方から続いているという解釈が一番自然だし、多分そうなんだろうなと思います。

勝村：音楽部で演奏会の時期になると、ずっと上の先輩も来ていただいたりするのですが、在学期間が多少とも重なっている学年はすごく仲が良いのですね、どこの年代を切り取っても。特に音楽部は上下の仲が良いクラブなので、僕も74期、75期の先輩から一杯教えてもらって優しくしてもらって有り難くて、今でも連絡を取ったりしています。そのやってもらったことを、今度僕は79期とか80期、81期の後



インタビューの様子

輩に伝えようと、中学の時も思ったし、高校になってその先輩たちを理想にしてやったので、そういうのが脈々と伝えられていくんじゃないかなと、僕が世話をした後輩達に期待しています（笑）。

サッカー部で佐野君のポジションはどこですか？

佐野：キーパーです。

キーパーと言えば、以前にインタビューした模擬国連で賞を貰った佐伯君もそうだったよね。

佐野：佐伯さんには、僕らも中学時代の試合でしたけど審判をしてもらったことがあります。佐伯さんは確か僕らの指導員の学年（73期）だったと思います。

将来の夢は何ですか？

勝村：……。佐野、先言って！（笑）

佐野：具体的な夢とかは全然無いのですが、今までの六甲生活6年間においても、あんまり後先のことを考えずに、その場で出来る限り一生懸命やろうかなというのを意識してやってきたので、これからの人生においても、多分ガチッとした目標は定まっていないのですが、直近で言ったら大学で勉強したいことを勉強する。大学で就活とかになった時に、自分のやりたいことが見つかっていると信じて、その場で一生懸命やる…という感じです。

今を一生懸命やるのが、自信になっていくのだと思います。指導員を1学期間できたとか、体育祭委員を一生懸命できたとかの積み重ねを作って行く…。一生懸命その場で出来たら良いかなと思います。

「信じてやる」という言葉は素敵だなと思いますが、カトリックの学校である六甲ならではのことはありますか？

佐野：僕自身カトリック信者ではないですが、自分に使命が与えられるという価値観は、“Man for others with others”、人の為に人と一緒にやっていると、人から自分がやらないといけないことを示されるということはあると思います。それは人から教えられたというのがありますが、自分自身の実感としてもあるところなんです。自分が「これをやる」と決めたことに、「お前、向いてないよ」という時もあるかなと思います。逆に「これをやった方が良いよ」といわれる事はそれをやった方が自分のためになるというか、それが結局自分に向いていることなのかなと思います。指導員を引き受けたのも「君は指導員、出来るよ」と人から見込まれた…というのがあったし、体育祭でも僕は主任なんてやるつもりじゃなかったのに、委員長から「お前やったらできる！」「いやできへんって！」というやり取りを何度か繰り返した後「そう言ってくれるんなら」という感じでやりました。「パシリ」とかの一方的で単純な仕事でもないの、こういう任せられた仕事というのは、できるだけ積極的にやろうかなと思っています。

じゃあ勝村君の番です！

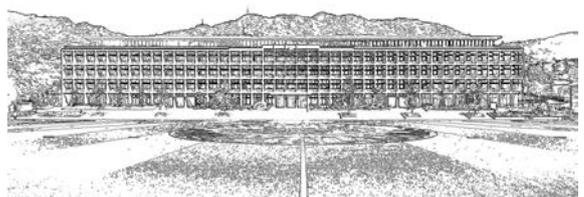
勝村：ちょっとハードルが…（爆）。僕も具体的に将来この仕事がやりたいというのが決まっているワケじゃないので

すけど、六甲の5年間を通して「縁ってあるな」と思いました。色んな縁が繋がって行って…という気がすごくします。今、佐野の話を聴いていて思い出しましたが、六甲で尊敬できる先輩とたくさん出会えたのが僕にとって大きくて…。先輩から色んなアドバイスをしてもらいました。部活の運営も先輩に相談しながらやったし、体育祭の時も、過去に体育祭の運営の経験がある先輩の背中を見て…というのがあったなと思います。大学の進路が決まらずに悩んでいた時に、「大学は縁があるから。出会いやから。大学に行って色んな人と出会って欲しい」と先生に言われて、なるほどなと思いました。六甲生活を振り返る中で、出会いというのが大きかったかなと思います。この6年間を通して、例えば佐野とかも同級生で、これだけ色々一緒にやらせて貰って、本当に良かったなと思うし、大学に行ったら新しい出会いがあって、新しく影響を受ける人がいて、そんな中でやりたいことも見えてきて…と。これから先もそんな感じになっていけたら良いなと思います。

スママセン！佐野に比べて薄くて！（笑）。

今回の伯友会側のインタビュアーは4名でした。たまたま音楽部出身1名（20期・宇都宮）、サッカー部出身3名（25期・一宮、42期・松下、43期・小幡）だったので、余談話にも花が咲きました。そして、将来のことで「縁」というキーワードを挙げたところは、20期・宇都宮、42期・松下のこれまでと相通ずることで、すごく引き込まれました。

また、六甲の良い所というのは進化しているんだなとつくづく思います。今は指導員がメッセージカードを贈るようですが、43期・小幡が指導員の時はメッセージカードのようなものを渡すことはなく、その時に指導した子たちのことを記した手帳が手元に1冊残っているだけでした。最近、そのお世話した期が伯友会の懇親会幹事をした時に（卒業後25年目に幹事が回ってくる）、その手帳のおかげで、当時のことを振り返ることが出来て、また心を通い直せました。手帳からメッセージカードのように、指導員という伝統も進化しているのは素晴らしいことだと思います。



# 先生を訪ねて

この欄では、六甲の先生を訪ねて、インタビューを通してその先生のご活躍をご紹介します。今回は、生徒支援部の大石先生と畑原先生にお話を伺いました。

ファイル No.	19021
氏名	大石直子 (おおいしなおこ)
出身	佐賀県立唐津東高校 関西外国語大学外国語学部英米語学科 採用支援コンサルタントなどとして約16年勤務 神戸松蔭女子学院大学大学院文学研究科心理学専攻臨床心理学コース修了 関西医科大学大学院医学研究科医科学専攻心身医学在学中 2018年4月六甲学院奉職 資格：公認心理士・臨床心理士 国家資格キャリアコンサルタント
担当教科	教育相談 (スクールカウンセラー)

ファイル No.	19022
氏名	畑原勝巳 (はたはらかつみ)
出身	六甲中学・高校 (36期・陸上部) 大阪体育大学 1985年9月六甲学院奉職
担当教科	体育

まずは大石先生からお話を伺います。佐賀県立唐津東高校は県下有数の進学校で公立の中高一貫校のようですね。

大石：今はそうなのですが、私の時は普通の県立高校でした。私の卒業後10年ほどしてから、学校の敷地が狭かったので、まず校舎が移転して、その時に中高一貫校に変わったみたいです。

遙か昔ですが、元々は男子校としてスタートして、途中から共学になった経緯があったので、どちらかというとも男子が多い学校でした。女子がいなければ雰囲気的には、ちょっと六甲っぽい感じもするのかなという感じの学校でした。進学校だなんて、六甲の先生達を前に言えませんよ！(笑) 田舎なので選択肢が少ないのは事実なので、そういう意味では大学に行くための学校ではあったと思います。

関西外大に進学されたということは、高校時代は文系に進もうと考えておられたのですか？

大石：語学系の国語、古文、漢文、英語が得意で、理系は苦手というか余り好きじゃなかったもので、勉強そのものをあまりしなかったような気がします。どちらかという、好きなことだけやった3年間でしたね。

なぜ関西外大を選ばれたのですか？

大石：なんでなんだろう・・・今となっては余り覚えてないの

ですが、語学系が好きだったことと、単純に地元を出たかったんです。大学は自分で、全国から好きな場所を選ぶもんだという文化が我が家にはありまして。私の兄が東京の大学に行ったので、私も東京の方に行くと「一緒に住め！」と言われるのではないかと、兄を回避して関西にと。

当時の私は、親戚とか、知り合いのいないところに行きたくて、学校の先生にそういう形で相談しました。ウチの学校は「国公立を目指せ！」という方針でしたが、私は国公立大学というのに全般的に関心を持っていませんでした。というのは、センター試験を受けて、その結果を見てどこを受けるかを決める…みたいなことを先生がガンガン推してくるのが私はじっくり馴染めなくて。自分が好きだと思える学校が凄すぎる場所だったら、自分がそこに入れるように目指したいし、(ランク的には)イマイチだと思っててもそこに行きたいんだっただけに行けば良いしという考えだったので、どうしても私の思考は私学の方に傾いていました。その中で関西外大は、当時の私にとっては凄く魅力的に映ったので、行きたいと思ったという感じです。

牧野 (枚方市) の周辺に住まわれていたのですか？

大石：そうです！大阪でもすごくローカルな街で、私がイメージしていた大阪とは色々違っていました。「こんなにも何にもない街というのが、大阪にも有るんだな」と思いました。ちょっと行ったら田んぼとか、大きい川とかがあって…。人も荒っぽくて、物騒でした。4年間、怖い思いもして、メンタルが鍛えられました(笑)。真向いの家が火事で全焼したり、ある時は近隣の住民がけんかをして車のフロントガラスを割っていたりする中、「ちょっと済みません！学校に遅刻するので！」と避けながら通学したり…(笑)。

外大出身者の就職の傾向はどのようなものですか？

大石：航空会社や学校の先生になる人は分かりやすく英語を使う就職になりますね。因みに関西外大はキャビンアテンダントの採用実績全国第1位なんです。

私は、コンピューターの周辺機器(コピー機など)のメーカーに就職して、営業をやっていました。20代一杯まではその会社にて、一度その会社を辞めて、転職して(グローバル系人材紹介業で採用支援コンサルタント)3年ほど働いた後に結婚しました。結婚後に、もう一度最初に就職した会



大石直子先生

社に戻ったんです。その会社は、そういうパターンが結構あるんです。途中の空白期間はありますが、最終的にはその会社に14~5年在職したことになります。

なぜ、神戸松蔭の大学院で臨床心理学コースを学ぶことにしたのですか？

大石：説明するのが凄く大変なのですが…（笑）。元いた会社は、すごく人材育成に力が入っている会社で、例えば社員研修とかを他の会社に提供するような関連会社を持っているようなところなんです。新入社員研修や、管理職研修や、他の職種間との連携を深めるような研修など、色んなことをやっている会社で、人事部は凄く人気がありました。私もそういうのがやりたかったのですが、なかなかそういうポジションに最初からは行かせて貰えないんですよね。例えば営業職なり技術職なりで、現場で経験を積んで、有る程度後輩の見本になれる頃に人事部に移るというパターンが王道なんですけど、働けど働けど「現場で頑張れ！」と言われてちゃって、待てなくなったので辞めることにしました（20代後半）。

次に行ったのが人材紹介系の会社で、他の会社向けに採用のコンサルティングとかをやっている会社だったので、そこでやりたかったことをやろうとしていたわけです。その人材コンサル会社では、自分が元いた会社のようなところに採用のコンサルティングをする立場になりました。その時に、研修形式の講義よりも、例えば「大学はどこに行こう」とか「会社に入ってどんな風に今後20年、30年どう働けばいいのか」という悩みに1対1で付き合ううちに、その人の成長過程を支えるようなカウンセリングを考えるようになりました。ふつふつと考えて、迷いながら時間が経過したんですけど、ある時、家の環境的にちょっと時間ができ、お金もちょっと自由が効き…というチャンスが訪れて、「今なら2年くらい勉強し直すの、行けるんじゃないか！」と思って、隙を見て盗塁したような感じで（笑）家族に黙って、ささっと大学に行くことを決めてしまいました。

ということで、会社は一旦中断して、大学院に通うことにしました。

臨床心理学というのはどんなことをするのですか？

大石：基本的には心理学の勉強をするのですが、臨床心理学というのは人を対象とした、簡単に言うと治療を目的とした心理学という意味です。実験とか、単に人をコントロールすることが目的ではなくて、医療機関や学校で、何か困った状態が起こった人のカウンセリングとか面接を通じて治療に活用していくという分野の心理学です。

神戸松蔭女子大の大学院を修了してすぐに関西医科大学に進まれたのですか？

大石：はいそうです。神戸松蔭の私の指導教員が、元々九州大学の心療内科で患者さん向けの心理療法をしていた臨床心理士の先生なんです。九州大学は日本で初めて大学に心療内科を作った大学で、全国でまだ5~6校しかないのです

が、そこでずっと経験を積んできた先生なのです。

心療内科というのは、人は誰でも何らかの病気をする中で、体の変調というのは、その人の心のありようとどこかで必ず繋がっているんだよという考え方の、東洋医学に基づいた心理学です。例えばサラリーマンの大人でも中高生の子どもでも、今日は大事な用事があると思った日に限ってお腹が痛くなるというのがありますよね。ちょっとストレスが貯まってくると頭が痛くなるとか。それは単純に頭痛薬を飲めば治るという問題ではなくて、その人の根っこにある生活習慣…単純に食べる飲むの生活習慣ではなくて…どういところで実はストレスを凄く我慢しているとか、そう言うのと密接に繋がっているよ…という医療を行うところなんです。関西医大が九州大学に次いで全国2校目の心療内科を作った大学なのですが、そこに修行に行つてこいと言われて、行くことになりました。

関西医大で今は准教授の先生が、私のこれまでの経歴…メーカーで営業職をやつて、カウンセリングをやりたいなつて…をご存じで、その経歴を生かして一緒にやってくれないかと誘っていただいたので、この年にして（笑）まだ大学院生をやっています。

その先生は、専門家と非専門家、プロフェッショナルとお客さんという、対等とは言いがたい二者関係で、お客さん側の困り事をしっかり聴かないと治療なりサービスなりが始まらないという状況で、どんな風にプロフェッショナルの人が非専門家側に寄り添って話を聴くのかということの研究をされていました。

関西医大にお世話になり始めて4年経ちますが、最初の2年間はお医者さんで言う研修医のような形で、実際の経験をしながら学びましたので、大学院生としては2年目です。

大学院に通いながら仕事をするというのは大変じゃないですか？

大石：いやあもう、めっちゃくちゃ大変ですね！（笑）

六甲との出会いはどういう経緯ですか？

大石：先ほど話しに出てきた神戸松蔭の私の指導教員が古泉校長と古くからのお知り合いで、神戸松蔭の先生が主催している心理学の勉強会に六甲の先生も昔からよく来ていただいていた様子です。六甲には14~5年前から梶原先生というスクールカウンセラーの方がおられるのですが、その先生が手一杯になってきたので一人増員したいという話になったそうで、その時に松蔭で私の先輩であり、関西医大でも先輩になる方が増員第1号になりました。その方が関西医大でめでたく博士号を取られて、松蔭の先生に戻るようになったので、その後任として声を掛けていただきました。

六甲の印象は？

大石：お話をいただいた時は「なんで私が!？」とビックリしました。男子校なんて行つていいのかしらと（笑）。松蔭時代はよく生徒さんが坂を下りていくのを見たことがありま

したし、小学生がすごく勉強して入る学校だということは私も良く知っていました。とにかく「なぜ私が？」でした。これまでの経歴の中で学校関係は全くないですし、心理学を専攻してからも医療系ばかりで来ていたので。家が近いので、それだからかな…とっていました（笑）。前任の先生とも仲が良いので、コンタクトが取りやすいからだろうかとか、とにかく理由が解らなかつたですね。

男子校のスクールカウンセラーは男性で、どちらかというスポーツが好きで…生徒の見本になりそうな人が良いんじゃないかとちょっと思っていました。（※前任者は男性でした）学生時代は勉強に関しても、誰に何と言われても好きなことしかしなかったの、何か私に出来る事があるんだろうかと、大変心配していましたが、来てみるとすごく楽しいです。

どういうところが楽しいのですか？

大石：私が想像していたよりもはるかに先生達がフレンドリーでした。学校の先生というのは堅い人しかいないとっていました。私の母校は堅い先生が多かったですし、特別にスポーツが盛んな学校でもなく、「国公立大に行け！勉強だ！」としか言わなかった中で、私は当時、いかに勉強以外のことを楽しんでやろうかという悪い生徒だったので、先生というものにそんなに良い印象は持っていませんでした。六甲に来て、「学校の先生も、こんな人間味溢れる方が一杯おられるんだな」というのが第一印象でした。

生徒さんの雰囲気としては「堅い」とか「伝統を重んじる」とか、「みんな統一された」印象を持っている方がすごく多いと思うのですが、先生方はそうでもないなと思いました（笑）。そこは意外でしたね。多分、生徒に対しては見た目は厳しく接したり、常識的な事ばかり言ったりされているんだろうなと思いますが、そういう厳しい先生にこそ卒業してから生徒が先生を指名して面会に来たりしていますね。先生達が生徒達の前で見せる顔と、生徒の受け取り方では違うのかもなと思ったりします。

話は変わって、趣味の話に。旅行がお好きだということですが、英米語学科卒だから、英語圏が多いですか？

大石：外大生なので、ヨーロッパや英語圏が好きかと思われれるのですが、実はそんなに好きじゃないんです。飛行機に長時間乗るのが結構疲れるので、移動時間は3時間位で済ませたいと思っていますよ。

また、漢字があると何とかなると思っているので、上海とか香港、台湾などの中国系が圧倒的に多いです。でも最近ちょっと物騒なので、ビビりつつ行っていますが…（笑）。

第2外国語は中国語ですか？

大石：第2はスペイン語だったんです。関西外大では英語の次にメインな言語なので（当時の関西外大は英米語学科とスペイン語学科だけだった）、スペイン語をやっておかないと…と思ったのですが、今思えば中国語をやっておけば良かったと思います。

スペイン語圏に行かれたことは？

大石：行きました！それでエライ目にあって…（笑）。バルセロナに行ったのですが、ちょっと通ぶって、全部自分で手配して行ったんです。飛行機が夜中に着いたのですが、わかりやすい場所に泊まれば良いのに、ちょっと玄人好み辺鄙なところ（電車でだいぶ移動するようなところ）にホテルを取ったんです。そこで暮らすような感覚で旅行したいとか、アホなことを考えていて（笑）。

その当時はスマホを持ち歩くような感覚ではなく、海外旅行といえば「連絡つかなくなるけどよろしくね！」というノリで行っていました。インターネットはあるけど、ホテルの地図を印刷していく感じでした。その地図に記されているホテルの場所にホテルがなくて…（笑）。シャッターだらけの商店街みたいなのところに着いたんです。2～3軒隣にもホテルらしきものはない、廃墟みたいなのところに着いたんですよ。夜中の12時くらいで、人気もなく、スーツケースを持って、着いたところでぐたぐただし、「もう私、ここで死ぬんだ…」と思って半ば諦めていた時に、ある男性が「どうしたの」と近寄ってきました。どうせ死ぬんだったら人を頼って死のうと思ひ、勇気を出して尋ねたら、その見知らぬ男性がその辺の流しのタクシーにホテルの場所を聞いてくれて、地図が間違っていることや、そこから10分ほど歩いたところにあるらしいと教えてくれて、そのタクシーに乗らずに歩いて案内してくれたんです。日本から来たという話をしたところ、その方の彼女が今、大阪にいるとか。たまたますごく良い人だったお陰で何とか生きて帰って来れました。

スペインの人って日本のことが好きな人や縁のある人が多いですね。でも、やっぱり怖かったので、以降はヨーロッパに行くのは止めようと、ヨーロッパ自体を絶ちました！（笑）。

高校野球好きだそうですが、高校時代からですか？

大石：いつか解らない位前から好きです。多分、兄が野球をしていた影響だと思います。一番最初に好きだった高校はと言われたら「池田高校」（さわやかイレブン、やまびこ打線、蔦監督、水野雄仁投手）と出る位に、相当昔から好きだったと思います。地元の学校が好きとかではなく、どこどこ高校の監督がどうか、応援がどうか、こういう高校からよくこういう子が出てくる…などのうんちくを言うのが好きなんです。今年も行ってきました。今年も明石商業を応援していました。それは監督さん（狭間善徳監督）が好きで…。六甲の井上祐志先生（前任校が龍谷大平安、数学担当、野球部顧問）に、龍谷大平安の監督が好きなので「サインを貰ってきてください」とお願いしたりしています（笑）。

一つの高校を何年も応援するというよりも、名將がいるチームの、その監督の指導方針とか戦略とかを色々聴いているのが楽しいです。

それも心理学と繋がりがあからですか？スポーツってメンタル

が大事ですもんね。

大石：それはあるんだろうなと思います。この場面で誰に何をさせるとか、ピッチャーの交代云々とか。エースピッチャーを入れて抑えるのは簡単ですが、そのピッチャーは育つし、監督の見る目は育ちますが、他の人は育たないですよ。今いるピッチャーでなんとか頑張れという状況で、他の野手が何も油断できないという状況を育てるのも大事です。どうやって何とか凌ぐかというのも大事な教育だと思います。

高校野球は好きだけど、プロ野球は違うのですか？

大石：プロ野球も嫌いではないのですが、どうしても目線が高校野球からスタートするので。「あの子がもうあんなになったんだ…」という卒業生を見る先生のような気持ちで見えますね。

技術もメンタルも高いレベルにあるプロを見るより、学校スポーツでの成長過程を見るのが良いのですか？

大石：それは思います。私はアマチュアスポーツが好きなんだと。プロ野球はみんな完成されていて、一人一人が専門職なので、今あるデータ以上のことはなかなか起こらないですよ。アマチュアスポーツは、「ここでそれが起こるか!？」ということが起こったり、今まさに選手が一段階育ったという場面が見られるのが楽しいですね。

緊張や人見知りなのを顔に出さないのが得意だそうですが…

大石：私はバリバリ緊張しているのですけどね…何かにつけて。保護者会とかは、死にそうでした(笑)。「逃げたい!逃げたい!」ばかり言っていました。保護者会で講演をしたことがあったのですが、あの時は「どうやったらインフルエンザになれるのだろう」と考えていました(笑)。学校の先生って本当に凄いなと思います。毎回、何十人もの人前で話したり、入学式だとか朝礼で良いスピーチをしたりとか。私は絶対したくないですもん。

そんな人がカウンセラーになってしまったのは？

大石：人前でしゃべることは想定していなかったので…(笑)学校勤務になって凄く困りました。こんなにも人前に出ないとあかんのかと。

カウンセラーで講演をされる方もいますが、そんなに頼まれることはないですし、学校のように200名位を前にしてすることはないと思います。

お酒が強いそうですが、九州出身だからですか？親譲り？

大石：一家全員飲みますね。ウチの親戚で飲めない人はいない!(笑)

最近、焼酎は止めました。ビールや日本酒、ワインが好きです。洋酒は飲まないようにしています。

畑原：六甲で一番強い先生かも知れません(笑) 顔色は変わらないですし。

お酒の話は未成年も読者なので、あまり膨らませないようにします(笑)。そろそろ畑原先生のプロフィールをお聞かせ下さい。先生はアメフトの印象が強いのですが…

畑原：光富先生の後任として1985年9月に赴任しました。

六甲時代は陸上部で、大学からアメフトを始めたのですが、赴任当時、陸上部は山本先生と平井先生がおられたので、バスケ部の顧問をしていました。

大石：1985年。私は小学生です(笑)

アメフト部が出来たのは何年ですか？

畑原：1991年です。

大石：私は高校生ですね(笑)。

今号の「会員探訪」に掲載の52期・西川圭史さんはよくご存じですよ。

畑原：アメフト部の第1期のキャプテンです。彼が中3の時、サッカー部の数人が「アメフトをやりたい」と言い出したのが始まりなんだけど、意外にもツクセン(佃先生)が反対しなくてね。だからアメフト部が出来ることになりました。あの時、ツクセンが「断固としてアカン!」と言っていたら絶対無理でした。なんで反対しなかったのか不思議なのに、逆に応援してくれました。

現在もアメフト部の顧問をされているのですか？

畑原：はい。現在は3人体制で、48期の石崎先生と六甲の卒業生ではないですが体育の佐藤先生(アメフト経験者、大阪体育大出身)でやっています。

73号の「先生を訪ねて」でお話を伺った鍵山先生は初代生徒支援部長でしたが、畑原先生も現在生徒支援部に属されているのですか。

畑原：部長は森本先生という方がおられて、僕はコーディネーターという名前です。

昨年に引き続き、今年も生徒支援部の先生をご紹介いただいたのですが、学校の中でも重要な位置付けになっているということでしょうか。

畑原：(人選に関しては分かりませんが)支援が必要な生徒が年々増えてきているのは事実ですね。昔のように、「勉強せんかい!」と言うだけで、勝手に卒業していく時代ではなくなっていますね。

六甲に限らず、昨今はクラスに1~2人、不登校の子がいる時代ですよ。

畑原：2パターンあると思います。1つは、昔、低血圧と呼ばれていたような、病気で朝起きられない子が増えたのと、もう1つはメンタル的に「学校に行きたくない」という子が増えたのだと思います。

大石：昔だったら「いやいや病」とか、「わがまま病」みたいに括られていたものが、今は医学的に説明がつくことも増えてきています。特に中学生、高校生は体の伸び盛りですが、



畑原勝巳先生

個人差もありますし、均等に拡大していくわけじゃなくて、縦に伸びたり横に伸びたりする中で体調を崩す病気があるというのも段々分かってきています。

今、不登校になっている子や不登校になりそうでギリギリでやっている子の中に、そういう子が割と多いというのが分かってきています。メンタル面よりも先に、体の不調が先に来て、体調が悪いと人はどうしても気持ちが萎えますよね。学校のカリキュラムは各個人の体の成長に合わせて組まれているのではなく、いつ何をやるというのは均等に決まっていますので、中高時代というのは、ついて行きづらくなるタイミングが出てきやすい時期だと思います。そういう時に適切な支援を受けられないと、最初は体がしんどいだけだったのが、徐々に気持ち的に嫌なモノになっていって…と、ミルフィーユ状に乗っかって行って…ということが、今は分かりつつあるようです。

過去は少なかったのに、最近増えてきているのはなぜなのでしょう？

大石：過去には、単にそれが目立たなかったのだと思うのです。例えば、「この子は勉強が嫌い」という形で片付けられて、早々にレールから外されました。最近は「発達障害」と診断される子も、昔は「変わった奴」で片付けられてしまったりしていたのでしょうかね。

今の教育現場は、そういう子も一緒に「多様性を学ぼう」という方向に行っているのです、逆に目立ちやすくなったのかも知れませんね。私と畑原先生が生徒支援教育のメンバーをやっているのですが、普通クラスで過ごすのは無理な生徒の中にも、「クラスには行けないけど、学校は嫌いじゃない」という生徒もいます。私の個人的意見としては、せつかくの中高一貫なので、6年間を使って、入口と出口だけ同じタイミングになれば、育つペースは緩くなる時期があったり、急速に伸びる時期があったりしても別に不思議じゃないと思うのです。クラスがあって、みんなが一緒に授業を受けて、「自分は人と違うのではないか」というのを気にし出すと止まらなくなるのかなと思ったりします。私自身、中高時代にそういうことを悩んだりしたので、分からなくはないです。

畑原：昔の六甲とは違って、今は学校のシステムとして、そういう子のあるがまを受け入れて、卒業させてやる体制を作りたいと思っています。六甲は進学校だから、進度が速いので、何日か休むと当然遅れる…余計に入れない…学校に行きたくない…という悪循環を解消するために、別なカリキュラムでやっていけないかなというのを考えながらやっています。

ただ、個人差もあるし、一朝一夕で確立できるものでもないので、試行錯誤しながらやっています。大石先生もいわれたように、6年間一貫教育なので、入口と出口があって、6年で卒業したらええんやという考えで学校全体が運営できたら良いのだけど、進学校という側面もあるので、非常に難しいテーマではあると思います。

彼らも支援クラスの中では楽しく生活しています。先日は、中3、高1の子たちを連れて立山キャンプに行ってきました。

大石：他の学校でも心配されるのが、特別クラスを作ると、他の生徒も流れてくるのではないとか、そこにも入れなくて更に落ちていく子がいるのではということです。

六甲では、支援クラスがなかった時に、ほぼ不登校になっていた生徒を「引き上げる場」の中間地点として設けた形です。学年別ではなく、例えて言えば田舎の分校のような構造になっています。

授業などはするのですか？

畑原：時々、数学や英語の先生が行ってやりますが、基本的には自学で、とにかく学校に来ようという場です。

(自分がそうですが) 学校時代の成績が悪くても、卒業して社会に出てしまえば、残っているのは六甲で学んだ精神だったりしますしね。

畑原：そうですね。卒業したら自分でキッチンとした生活をしていけるんだからね。

大石：六甲はイベント事で、集団行事もすごく多く、みんなで一緒に同じ事をやるというのが目立つのですが、独りでいることが好きという生徒も大勢いると思うのです。休み時間に独りで本を読むのが好きだとか。でも、保護者の方々はそれで大丈夫かと心配されがちですよ。

でも、六甲生であることには変わりないのだから、自信を持ってマイナーである事を楽しんで貰えたら良いと思います。卒業生が「学校生活で一番得られたものは？」と問われて「よく勉強しました」と答える人は余りいないですよ。先生達や友達との思い出や、厳しい規則の中でどう生活したかという話をよくされますよね。学校生活で、「勉強が楽しくないから、イコール、学校楽しくない」であって欲しくないですし、「友達と上手く行かなかったから学校が楽しくない」もあって欲しくないです。

独りでいることを堂々と楽しむことって、大人になったら凄く役立つスキルなので、遠慮なくやってもらったら良いのかなと思います。そういう中で「ここまで来たんだから卒業せな損や！」と発破が掛かる時が来るでしょうし。6年間ギリギリまで、何かを自分で気付く時を待てる学校でありたいなと思います。

仮に6年間で気付かなくても、六甲を卒業することは意味があると思います。

大石：そうなんです。高校に入ったら苦労するんじゃないかと心配して、中学の途中で退学した方が良いんじゃないかと思われる保護者さんもおられますが、とにかく中学までは卒業した方が良いのになと、私は思います。たまたまその時、そのタイミングで自分のコンディションが整わないだけなので。中学、高校の時期は珍しいことではないと思います。

そういう子たちを温かく包むのが生徒支援部なんですよ。

大石：学校が楽しくないとか、勉強が辛いとかと相談に来られたら、「それが正常だ！普通だ！」と伝えていきます。カウ

ンセリングは、本人から申し出る場合と、先生から要請がある場合があります。

畑原先生は先生としてもOBとしても、一人でも多く卒業させたいですね。

畑原：伯友会には立派な卒業生がいっぱいいるから、まず卒業して、そしてOB会である伯友会に入れば良いと思っています。

大石：私も高校時代に学校に行きたくなかった時期がありましたね。部活しか行かなかった時もありました（笑）。野球好きなのに、高校時代はサッカー部のマネージャーだったんです。野球部はそんなに強くなかったの（笑）。選手でもなく、マネージャーなのに部活しか来ないという（笑）。授業たっぷり休んで、放課後になったらジャージ着て現れて、ピーとか笛吹いて！（笑）

## 第12回六甲伯友会OB講演会



2013年から始まり今回で第12回となる伯友会OB講演会を2019年6月28日（金）の6時間目に高校1年生を対象に講堂で行いました。

今回は、伯友会の常任幹事で事業委員長の33期濱田有司氏に「神戸の建築・まちづくり行政の現場から」といった題名でご講演いただきました。

濱田氏は、神戸市役所に入庁後、教育委員会文化財課、都市計画局、住宅局等を経て、建築技術部長、建築指導担当局長を担われたのち定年退職。その後も歴史的建造物・空家空地対策担当部長として活躍されておられます。

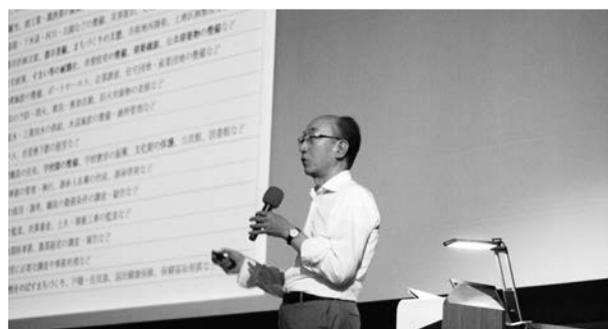
まずは「日本の公務員とは」から話をさせていただき、ご自分の経験とともに神戸市役所の組織についても説明いただきました。北野の異人館の歴史的な流れとその保存についての話や、北区の古民家の藁ぶき屋根の話、阪神淡路大震災の被害の写真とともにその後の復興についての話、そしてその際に緊急で震災復興住宅の計画策定について話して頂きました。次に、現在では日本全国で7件に1件が空家になっていることや、所有者不明の土地が九州全土と同じぐらいの面積になっていることからその対策が急がれていることなど、建築・まちづくり行政の様々な点についてご自分の経験に基づき話をいただきました。

最後に「神戸市職員採用のビデオ」の上映とともに、神戸市役所職員の専門的な仕事を含めた様々な仕事を紹介していただきました。

途中、準備していただいたパワーポイントの画面が消える

ハプニングもありましたが、公務員の仕事の多様性と企画を立ててそれを実行に移していくというやりがいのある仕事であることなどを生徒達にお話いただきました。

（六甲学院中学校・高等学校 林 豊 記）



### これまでにご講演いただいたOBの方々

- |      |              |
|------|--------------|
| 第1回  | 角田 嘉宏氏 (13期) |
| 第2回  | 井上 正順氏 (11期) |
| 第3回  | 渡邊 頼純氏 (29期) |
| 第4回  | 濱名 篤氏 (32期)  |
| 第5回  | 三木 伸介氏 (33期) |
| 第6回  | 北 徹氏 (22期)   |
| 第7回  | 御立 尚資氏 (32期) |
| 第8回  | 保田 隆明氏 (50期) |
| 第9回  | 野町 健氏 (46期)  |
|      | 森 臨太郎氏 (46期) |
|      | 吉田 之範氏 (46期) |
| 第10回 | 吉田浩一郎氏 (50期) |
| 第11回 | 原田 佳尚氏 (46期) |
|      | 渡辺 慎也氏 (46期) |

寄稿・紀行・聴こう

旅の思い出やふと思った事などを書き綴ってみませんか。今までおぼろげであった記憶や体験を再発見出来るかもしれません。原稿料は出ませんが、自分の文章が会誌に掲載される快感に浸って下さい。

11期卒業の井上正順さんがアメリカナショナルアカデミーの会員に選ばれる



井上正順氏

6月の六甲学院ホームページで既に紹介されましたが、此度11期の井上正順氏がアメリカのNational Academy of Sciences (NAS: アメリカ科学アカデミー)の会員に推挙されました。NASとはアメリカの先端分野の研究者の中から、その学会誌で発表された論文、授与された賞、研究課題等の卓越した研究成果から会員の推挙によって会員となります。最も権威があり、そのメンバーになることは科学者にとって最高の名誉と考えられております。

井上氏はこのたびNAS会員になったことに対し「32歳でアメリカに渡って52年になりますが、わたしの研究成果が52年の歳月を経て認められたことは喜ばしいことで、引き続き研究に専念しますが、後輩の方々にも励みになれば嬉しく思います」と喜びを語っています。

井上さんはバイオケミストリー、分子生物学の分野において、数々の新発見を導き出し、非常に独創的な科学者であります。特に彼のグループが1984年に発表した、人工的に操作して特別な遺伝子の現象を発見した論文は、後の2006年にA・ファイヤーとC. メローの「2本鎖RNAによる遺伝子発現抑制現象の発見」で授賞したノーベル賞の根拠になった彼等の論文の、14年も遡るものでした。

当時、日本のマスミでは本年のノーベル賞の陰に日本人科学者ありと言われたが井上氏です。

井上正順氏の経歴

1934年(昭和9年)10月2日 旅順で生まれる。

1953年 六甲学院卒業後大阪大学に入学

1958年 大阪大学理工学部卒業

1968年 大阪大学理学博士

1968 - 1971年 アメリカ、プリンストン大学研究助手

1971 - 1975年 アメリカ、ニューヨーク州立大学バイオケミストリー助教授

1975 - 1986年 同校分子微生物学部教授

1987年から現在 アメリカ、ニュージャージー州立大学医学部教授、その間特別教授“Distinguished professor”に任命され現在に至る。

将来科学に興味を持つ現六甲学院生や卒業生のなかで前途への疑問があれば喜んで相談に応じます。メールアドレスは下記の通りです。

minouye@hotmail.com

(11期 伊藤博通・山田敏行 記)

吉村先生ご退任記念の集い

六甲で長年にわたり社会科・宗教教育及び「人探(人生探検部)」活動でご指導頂いた吉村信夫先生が来年3月にご退任されます。先生への感謝を込め、記念の集いを大阪で開催致します。

開催日 2020年2月22日(土)

会場 大阪新阪急ホテル(阪急大阪梅田駅直結)

予定 ①16時30分~17時30分 記念ミサ  
(ホテル2階「宙(そら)の間」にて)  
司式 外川神父様(第4代校長先生)、  
山内神父様(49期)

②18時~20時30分 祝賀会  
(ホテル2階「花の間」にて)

会費 8千円~(人数によりますが、1万円は超えない予定。学割あり。)

お申込 以下のフォームにご記入をお願いします。

<https://forms.gle/ciAmXNCUQkoAgrEU7>

人探メンバーは勿論のこと、授業や課外活動、長島愛生園、インド訪問、レーベンスシュレで先生にお世話になった方、久しぶりに先生や仲間と会って話をしたい方など、広くご参加を頂ければ幸いです。

また、当日ご都合つかなくとも、文集に寄稿頂く形のご参加も大歓迎ですので、同じく上記フォームよりお申込み下さい。近年六甲学院の出版物を引き受けている福田印刷が、今回の文集専用の受付メールアドレスを設定するそうなので、そこに文章を送付することで文集の原稿として受け入れるとのことでした。

ご不明点などございましたら本企画の幹事(ystainin@gmail.com)までご連絡下さい。(42期 藤原和隆 記)

## 六甲生のアイデンティティー

六甲生のアイデンティティーとは一体何であろうか。六甲学院そしてOB会である伯友会両方の75周年を終えた今改めて思うのである。

「伯友」誌に掲載された六甲の現役生徒へのインタビュー記事や、伯友会の総会・懇親会の担当期となった諸君の取り組み方を見ていると自ずと解答が浮かんで来るのでは無いだろうか。私なりの答えを申し上げると、武宮隼人初代校長先生の建学の精神と「便番」「中間体操」「訓育生」の3つではないだろうか。武宮イズムは石碑に刻まれた

すべてものは  
過ぎさり そして  
消えて行く その  
過ぎ去り消えて行くものの  
奥に在る  
永遠なるもの  
静かに考えよう

に集約されている。今六甲学院には「六甲生のプロフィール：創造から想像へ」という物がある。ホームページでも閲覧出来るがここで紹介しておく。

- 1 ありのままの自己を受け入れ、その自己を向上させることができる
- 2 他者に開かれた心を持ち、生命（いのち）を豊かにする
- 3 永遠なるものにあこがれ、真理を探し求める
- 4 多様な文化を理解し、その中で共に生きることができる
- 5 決断する意志力を持ち、よりよい世界の創造のために働くことができる

失礼ながら、武宮先生の石碑の言葉ほど心に刺って来ない。恐らくは具体的過ぎて、読んでいて何か説教をされている感情が湧き上って来るからではないだろうか。その点、武宮先生の石碑は抽象的で簡単に読み手に考える余地を残す。恐らくは答えは一つではなく、いや答えすら求めよとは言っていない。只、考えようと。一人の人間にあっても考えは、年齢や環境によって変わるものである。只その局面、局面で考える事を説いている。それを実践する礎となるのが「便番」「中間体操」「訓育生」である。「便番」で人の痛みを知り、「中間体操」で体力を培い、「訓育生」から人との絆を学ぶ。先生が変わろうと、校舎が新しくなろうと、学校から神父がいなくなろうと、これらが六甲にある限り「六甲精神」は不滅であると思っています。（32期 近藤 健 記）



# 天 在 人 語

「てんざいじんご」と読む造語です。「天に在る人について語る」という意味です。亡くなられた恩師や先輩・同級生・後輩の思い出を綴った文章をご紹介します。

## フリン先生を偲ぶ会(東京、神戸)実施報告

### 東京

2019年2月17日（日）に四谷イグナチオ教会で行ったフリン先生を偲ぶ会（10周年）の報告をします。今年も、地下のクリプタで35期の英神父司式追悼ミサに与り、ミサ後、祭壇のフリン先生の写真を囲んで全員写真を撮りました。その後、先生のお墓参りをしました。ミサには34名が出席しました。その中に、泰星学園（現福岡上智）時代の教え子夫妻とご両親も含まれていました。

例年通り、中華料理店（京華園）で懇親会をしました。今年も、各期毎に集まって懇談し、フリン先生の思い出話はあまり出ませんでした。全会一致して来年以降も偲ぶ会を続けることになりました。

最後に校歌を歌って解散しました。

懇親会の参加者は合計32名でした。ミサのみ参加は3名17期1名、23期13名（懇親会12名）、29期6名、35期14名（懇親会12名）、41期1名（23期 大谷秀二 記）



### 神戸

2019年7月27日（土）に、母校のお御堂および別館106号室にて、フリン先生を偲ぶ会を開催しましたので、ご報告します。

今回も、東京から井上潔先生をお招きして、御ミサを執り行って頂きました。今年から別館106号室を「フリン先生メモリアル・ルーム」として、利用させて頂けることになり、そのお披露目も行いました。また、新たに寄贈されたCDプレーヤー（リピーター）を常設しましたので、フリン先生の

声を聴くことが出来るようになりました。

御ミサへの出席者は、添付の写真の通り、井上先生をはじめ、35期2名（大橋さん、津吉さん）、29期6名（金子、北村、高橋、藤井則雄、真弓、松本宏）の合計9名でした。阪急六甲での懇親会には、井上先生、35期2名（澤田さん、津吉さん）、29期は入江、田原進が加わり、合計11名が出席しました。

来年は、フリン先生生誕100周年にあたるので、多数お集まり頂いて、お祝いをしたいと思います。

(29期 松本 宏 記)



## 出版案内・本紹介



この欄では、会員や恩師の中で出版された方の本の案内をしたり、お褒め本の紹介や書評などの記事を掲載致します。お気軽にご投稿下さい。自薦他薦を問いません。

### 『雑誌涉猟日録』 — 関西ふるほん探検 —

著者 高橋輝次 (21期)

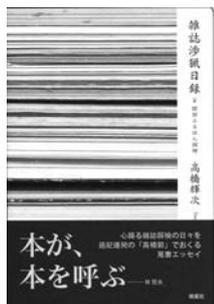
出版社 皓星社

価格 2,000円 + 税

帯に記載されている内容

・戦前大阪発行の文芸同人誌「茉莉花」探索  
・詩同人誌『季』で二詩人の追悼号を読む

- ・『季』に集う俊英詩人たち
- ・関西の戦後雑誌、同人誌を寸描する
- ・戦後神戸の詩同人誌『航海表』の航跡を読む
- ・神戸の俳句同人誌『白燕』（代表、橋間石）を見つける
- ・戦後神戸の書物雑誌『書彩』二冊を見つける！
- ・柘野健次『古本雑記—岡山古書店』を読む
- ・エディション・カイエの編集者、故阪本周三余聞
- ・中・高時代の母校、六甲学院の校内誌『六甲』を見つける！
- ・渡仏日本人画家と前衛写真家たちの図録を読む



### 『こころの人類学』 — 人間性の起源を探る —

著者 煎本 孝 (23期)

出版社 ちくま新書 (2019年)

ISBN978-4-480-07207-8

価格 880円 + 税

「わかちあい」「おもいやり」「いくしみ」。人類に普遍的に見出される私たちのこころはどこから来たのか。

そして、人間性の起源はどこにあるのか、さらに、こころは人類の未来を変えることができるのか。本書は、フィールドからこれらの問いに答えようとする試みである。

トナカイ狩猟民であるカナダ・インディアン、極北ロシアのトナカイ遊牧民コリヤーク、北海道のアイヌ、モンゴルの遊牧民、インド北西部のラダック王国、そしてチベット。多様な文化と社会の内側には、常に人びとのこころのはたらきがみられる。自然であり同時に文化でもあるこころは、人類の生態や社会と密接に結びつきながら生まれ、発動し、新たな文化や宗教を生み出している。それは人間の生と死とあわせにも深く関連している。

人間と動物は異なるものであるが、同時に本来的には同一だとする初原的同一性の思考にこそ「こころの起源」がある。そこから、自己と他者とは異なるものではなく本来同じなのだということ、したがってその関係は対立ではなく互惠なのだということのはたらきが生まれる。他者へのおもいやりや生命に対するいくしみの感情は、この人間性に深く根ざしているのである。

半世紀にわたる世界各地でのフィールドワークから、様々な社会に共通してみられる人間の生態とこころの本質を解明する。

#### 目次より

- 第1章 カナダ・インディアンの神話
- 第2章 レ・トロワ＝フレール洞窟の自然神
- 第3章 アイヌの熊祭り
- 第4章 コリヤークとトナカイの神
- 第5章 モンゴルのシャマニズム
- 第6章 ラダック王国と仏教
- 第7章 現代化のなかのチベット仏教とシャマニズム
- 第8章 こころの自然

(いりもと たかし 北海道大学名誉教授、Ph.D.)

俳句を軸とした文芸誌「沖ゆくらくだ」  
季刊で発行中。1部600円

**(株) 学術出版印刷**

〒554-0022 大阪市此花区春日出中2-14-9

代表取締役 **近藤 健** (32期)

TEL (06) 6466-1588, FAX (06) 6463-2522, E-mail: kondou@mxt.mesh.ne.jp

## 同好会だより

### 伯母野山句会からの報告

「プレバト」というテレビのバラエティ番組が始まって久しい。その番組の中で「プレバト俳句」というコーナーがあって、芸能人やタレントが作った俳句を、夏井いつきという俳人が辛口に批評するもので、結構人気があるという。現在俳句界には大きな三つ流派がある。私の属する伝統俳句協会と、現代俳句協会、俳人協会の三つである。各協会が設立されたのは現代俳句、俳人協会、伝統俳句協会の順で、会員数比率は24%、64%、12%である。伝統俳句協会が一番後発ではあるが、それでも三十年の歴史があるので、この数字は所属する者としては残念である。更に言えば、設立当初の会員数は現在の3倍近くもあり、他の協会、特に俳人協会に今程水をあけられてはいなかったのである。元はといえば近代俳句中興の祖といべき正岡子規と高浜虚子の流れを汲む「ホトトギス」を中心とする伝統俳句こそが王道であるという考えを持つ者にとっては忸怩たる現状である。

閑話休題、件の夏井いつき女史は私の俳句仲間の間でも評判は上々である。彼女は俳人協会系の結社（俳人の集まり＝組織で、代表者は主宰と呼ばれる）に属する人だが、俳人協会と伝統俳句協会とは、俳句に対する考え方や作風は余り変わらない。私が普段耳にする切り口で、俳句を論評している。もし、彼女の都合が悪い時は、私が代理をしても遜色の無い働きが出来るのではないかと思っている。俳人以外の人からも「あの番組は面白いですね」とか「何となく俳句が分かったような気になります」とかの意見を聞くが、「それでは是非あなたも俳句を始めませんか」と切り返すと途端に「いえいえ、私なんかとてもそんな才能はありませんから」と判で押したような返事が返ってくる。私達俳人（俳句を作る人という位の意味）の事を才能があるから俳句を作っていると思っているのだろうか。勿論中にはそういう人もいる。しかし、ゴルフを趣味にしている人全てが、自らにゴルフの才能を見出してゴルフを始めたよとは思えない。やり始めて、それなりの修練を重ねた結果、それなりのゴルフがプレー出来るようになるのである。

俳句に関して言えば、六甲の卒業生である伯友会会員は素養は十分である。要はその素養をどう磨くかである。現に殆んど初心者状態で参加された人が、一年程で立派な半人前の俳人になっておられる。（一人前になるにはひょっとしたら少し才能が必要かもしれない）何せ俳句はゴルフのように高い道具も要らないし、プレー費も安い（句会の参加費は大体千円、高くても二千円が相場）。『伯母山句会』と称して毎月、六甲学院の生徒研修所で開催している。早いもので今年の十月で百八回丸九年を迎えた。基本的に第三土曜日の午後三時半から六時に開催している。興味のある方は、奥様同伴でも大歓迎ですのでご参加下さい。当日の兼題（指定された季語）の事もありますので、事前に32期近藤（090-3658-7072）迄で連絡下さい。お待ちしております。

（32期 近藤 健）

## 編集後記

■「災害は忘れる間もなくやってくる」人間の無力さを実感する今日この頃です。武宮先生の碑のある校舎正面の巨岩も六甲山の「想定外大雨」で流れてきたもの。いつ何時、六甲山が1000mmの豪雨で我が身に降りかかるか？古希を迎え無為無策の過去を振り返り、微力ながらも広報のお手伝いをやらせてもらっています。（25期 一宮）

■今回もOBや現役生のインタビューに関わることができました。いつも、いい学校を出してもらったんだという感謝の気持ちとともに、文字起こしをするのに自然言語AIの発展が待ち遠しいなど。とはいえロボットにインタビューされる日が来るのは待ち遠しくないですね。（43期 小幡）

■14年間続いたJリーグ・セレッソ大阪の公式モバイルサイトが先日、サービスを終了した。

そのサイトの運営に立ち上げ時から携わって来たので、一つの仕事を失う以上の喪失感を味わっているが、その仕事を通して色んな出会いがあり、多くの事を学ばせてもらった。延べ数百人のプロサッカー選手にインタビューをして、口述筆記やゴーストライターをしてきた。彼らから、単にサッカー選手としての事だけでなく、一般の人々にも響く言葉を聞き出せたことは自分の財産となっている。

その中でも、香川真司選手、乾貴士選手、南野拓実選手などは日本代表の活躍でみなさんもお存じだと思う。彼らは才能がある上に努力の仕方を知っていて、做ることなく鍛錬できる人たちだ。

プロの世界に入ってくる選手たちは、もちろん一定レベル以上の能力を持っているが、プロに入ってから活躍を大きく左右するのはメンタルといえる。身体能力が冴抜けていると、ユース年代までは心技体の技と体だけで勝てる。それが故に如何に努力するか、頭を使ったプレーをするかの工夫に欠ける傾向にある。天才が伸び悩む原因の多くがコレだろう。

ある監督経験者が「監督が使いたくなる選手は、どんなに調子が悪い時でも80%以上の力を出す選手」と言っていた。パフォーマンスに大きな波がないのは、まさに心技体が充実してこそだと思う。

そしてこれらのエピソードはスポーツの世界だけではなく、一般人（学生、社会人）にも当てはまる。だからこそ彼らトップアスリートが語る言葉は、解りやすく私たちに響くのだと思う。

メンタルの大切さは、今回インタビューさせていただいた生徒支援部の大石先生、畑原先生のお話からも改めて学ばせていただいた。また酒井司教、西川氏、そして勝村君、佐野君からも、良いお話を聞かせていただいた。

インタビューをするのは好きだけど、それを文章にするのは時間も掛かるし、面倒くさい。ただ、伝える役割である限り、その面倒なことをしないとみなさんにお届けできないので、本業に忙殺される中、3本のインタビュー記事を何とか書き上げた。ほぼノーカットで掲載しているので非常に長いご勘弁を！

広報委員長はしんどう役目だけど、今回のインタビューでまた役得感を感じられたので、また来年からの3年は頑張りたいと思う。（42期 松下）

## 会員の皆様へ

### ■会誌「伯友」秋号の発送について

「伯友」秋号は、これまで、会費納入者にのみ送付しておりましたが、第72号において送付不要という方の調査を行い、ご回答のあった会員には翌年から秋号をお送りしていません。この間、会員へのサービス向上のため、六甲伯友会ホームページの充実を図り、会誌掲載の記事をはじめリアルタイムな情報も掲載するようにしてまいりました。

このたび、これらを踏まえ、経費削減の目的も鑑みまして、改めて今後秋号の送付を希望する会員を再調査させていただき、第77号からは、その方々に限って会誌をお送りする運びとなりました。

今まで会誌「伯友」をご愛読くださっている会員のみならず、今後はこれからもお送りいたしますので、お忘れなきよう是非お申し出ください。

詳しくは本誌6ページの広報委員会の記事をご参照のうえ、お手数ですがご回答ください。なお、お返事は伯友会HP (hakuyu.jp)、FAX または Eメールでいただければありがたいです。

### ■会費納入のお願い

会員には会費の納入義務があります。会費は伯友会にとって重要な収入であり、伯友会運営にとって貴重な財源です。未納の方は是非とも納入して下さい。

〒 657-0068

兵庫県神戸市灘区篠原北町1-8-25

伯友 太郎 様

(〇〇-〇〇-〇〇)

期	学年での	会費納入
	番号	状況

宛名ラベルの見方：あなたの会費が何年度分まで納められているかは、宛名ラベルに記載されています。もしあなたが終身会員であれば、会費納入状況は『終身』となっています。2019年度分まで納入済みの方は『2019』となっています。

また、会費納入実績がない場合は記載がありません。

**年会費**：伯友会年会費は3,000円です。会費未納期間が3年以上ある場合は、2年前に遡り本年度分を含めて3年分納入いただきます。

**終身会費**：終身会費は45,000円です。既に半数以上の会員が終身会員になっています。終身会員になると年会費の納入の必要がなく、毎年会費を納入する煩わしさもなくなります。また、過去の未払いの年会費を遡って徴収することはありませんので、終身会員になられることをお勧めしています。なお、今年度以降の会費を納入済みの方にはその分を45,000円から差し引かせていただきます。

### ■伯友基金について

伯友基金は六甲学院の教育活動と社会奉仕活動のために使用する目的で平成5年に設立された基金です。第3運動場のナイター照明もこの基金を利用して設置されました。

また、基金の一部から東ティモール聖イグナチオ学院奨学

金プログラムの協力もしております。

しかしながら、本年度はまだ1件も寄附のお申し出がありません。伯友基金の理念にご賛同いただける方は、下記の口座をご利用ください。

### ■伯友奨学基金にご協力を

六甲学院からの要請を受け、「伯友奨学基金」を設立しました。昨今、学費に困窮する学生が増え、大学生の2人に1人が約300万円の負債を負って社会に出るのが日本の現状となっています。六甲学院も決して例外ではなく、奨学金を必要とする学生が年々増加しております。“家庭の経済的理由で六甲を去らねばならない後輩をひとりも出たくない”という思いで設立された奨学基金です。伯友会からの奨学金として、年間約50万円の授業料相当分を1人もしくは2人に給付していくことを目標としております。これまでの呼びかけに応じていただいた皆様からのご寄付は197件7,516,611円に達し、うち1,382,400円を学校の求めに応じて送金いたしました。なお本年度はまだ2件120,000円に留まっております。これからも継続的な積み立てが必要です。引き続き基金へのご協力をよろしくお願いいたします。

※ご入金の際には必ず期・氏名をメールまたはFAXにて事務局までお知らせ下さい。

※寄付者のお名前は会誌の春号に掲載されます。匿名希望のかたは併せてお知らせください。

### ■伯友会事務局からのお知らせ

伯友会事務局執務時間は年末年始とお盆の頃を除いて原則的に月・水・金曜日のP.M.1:00~P.M.5:00迄です。ご用件の内容によっては、即答出来ない場合もありますが、必ず調べた上お答え致しますので、ご遠慮なくご連絡下さい。

#### 伯友会会費の納入は

- 三井住友銀行六甲支店 (421)

口座番号 (普通) 1103520 口座名 六甲伯友会

- 郵便振替

口座番号 01110-8-73016 口座名 六甲伯友会

#### 伯友基金への振込は

- 三井住友銀行六甲支店 (421)

口座番号 (普通) 3692900 口座名 伯友基金

#### 伯友奨学基金への振込は

- 三井住友銀行六甲支店 (421)

口座番号 (普通) 4513835 口座名 六甲伯友会奨学金

#### 伯友 75 号

発行日 2019年11月15日

発行人 石光一郎

編集 広報委員会

印刷 (株)学術出版印刷

校正 久井千岳

#### 伯友会事務局

〒 657-0068

神戸市灘区篠原北町1丁目8番25号

六甲学院生徒研修所内

TEL.078-861-6588 FAX.078-861-6573

E-mail office@hakuyu.jp





# 伯友

2019. 11 No.75

- 発行人 石光 一郎
- 編集 広報委員会

## 伯友会事務局

〒657 神戸市灘区篠原北町1丁目8番25号  
-0068 六甲学院生徒研修所内  
TEL 078-861-6588, FAX 078-861-6573  
Eメール: [office@hakuyu.jp](mailto:office@hakuyu.jp)  
ホームページ: [www.hakuyu.jp](http://www.hakuyu.jp)